

クレディ・アグリコル 2021 年度第 3 四半期と 2021 年度 9 ヶ月累計期間の決算

2021 年度 9 ヶ月累計期間の業績は過去最高となり、トレンドは継続。
 スイッチの 100%を解消

	クレディ・アグリコル・グループ		クレディ・アグリコル S.A.	
	表示	基礎的	表示	基礎的
9 ヶ月累計期間の純利益	67 億 4,600 万ユーロ 前年同期比+62.2%	62 億 100 万ユーロ 前年同期比+31.9%	44 億 1,600 ユーロ 前年同期比+71.9%	39 億 6,200 万ユーロ 前年同期比+37.9%
第 3 四半期の純利益	22 億 2,200 万ユーロ 前年同期比+25.7%	22 億 3,500 万ユーロ 前年同期比+15.6%	14 億 200 万ユーロ 前年同期比+43.5%	14 億 1,400 万ユーロ 前年同期比+26.7%
収益	89 億 6,900 万ユーロ 前年同期比+5.9%	89 億 7,200 万ユーロ 前年同期比+6.1%	55 億 3,100 万ユーロ 前年同期比+7.4%	55 億 3,500 万ユーロ 前年同期比+7.6%
費用 (SRF を除く)	-54 億 5,200 万ユーロ 前年同期比+7.0%	-54 億 3,800 万ユーロ 前年同期比+6.8%	-32 億 5,900 万ユーロ 前年同期比+9.0%	-32 億 4,500 万ユーロ 前年同期比+8.6%
GOI (営業総利益)	35 億 1,600 万ユーロ 前年同期比+4.3%	35 億 3,500 万ユーロ 前年同期比+5.0%	22 億 7,200 万ユーロ 前年同期比+5.2%	22 億 9,000 万ユーロ 前年同期比+6.2%
リスク関連費用	-4 億 300 万ユーロ 前年同期比-32.3%	-4 億 300 万ユーロ 前年同期比-32.3%	-2 億 6,600 万ユーロ 前年同期比-56.1%	-2 億 6,600 万ユーロ 前年同期比-54.0%
コスト比率 (SRF を除く)	60.8% 前年同期比+0.6 ポイント	60.6% 前年同期比+0.4 ポイント	58.9% 前年同期比+0.9 ポイント	58.6% 前年同期比+0.5 ポイント

クレディ・アグリコル S.A.収益の急増が業績をけん引

表示純利益: 第 3 四半期は前年同期比 43.5%増の 14 億 200 万ユーロ、9 ヶ月累計期間は前年同期比 71.9%増の 44 億 1,600 万ユーロ

基礎純利益: 第 3 四半期は前年同期比 26.7%増の 14 億 1,400 万ユーロ、9 ヶ月累計期間は前年同期比 37.9%増の 39 億 6,200 万ユーロ

力強いビジネス・モメンタムを維持: 2021 年度 9 ヶ月累計期間におけるリテール・バンキング部門の新規顧客 131 万 1,000 人

収益: 連結範囲変更影響を除くと、第 3 四半期は前年同期比 4.4%増、9 ヶ月累計期間は前年同期比 7.3%増¹、2019 年度第 3 四半期比 9.1%増

費用: 連結範囲変更影響¹を除くと、第 3 四半期は前年同期比 3.8%増、9 ヶ月累計期間は前年同期比 3.4%増、2019 年度第 3 四半期比 7.3%増

営業総利益: 連結範囲変更影響¹を除くと、第 3 四半期は前年同期比 5.3%増、9 ヶ月累計期間は前年同期比 13.0%増、2019 年度第 3 四半期比 11.9%増

コスト比率: 2021 年度 9 ヶ月累計期間は 57.2%、MPT 目標達成

リスク関連費用: 24 ベーシス・ポイント(年換算後四半期ベース)、不良債権引当率は上昇

収益性と財務状況は欧州金融セクターの中でトップランクに

	クレディ・アグリコル・グループ		クレディ・アグリコル S.A.	
段階適用の CET1 レシオ	17.4%	9 月/6 月で+10 ポイント	12.7%	9 月/6 月で+10 ポイント
	SREP 要件比+8.5 ポイント		SREP 要件比+4.8 ポイント	
			⇒ 2021 年度 9 ヶ月累計期間の ROTE 13.1% ²	

¹ 同一基準ベースの計算における 2021 年度の連結範囲対象外企業: クレバル、CA セルビア、JV アムンディ・バンク・オブ・チャイナ、ファンド・チャンネル、アナテック、サバデル、CACF NL、ソー・ユー、KAS バンク。2020 年度の連結範囲対象外企業: CA セルビア、Via Vita、IWM マイアミとブラジル、CACF NL。2019 年度の連結範囲対象外企業: CA セルビア、CA ルーマニア、Via Vita、IWM マイアミとブラジル、CACF NL

² 年換算後の基礎純利益グループ帰属分及び年換算後の IFRIC 解釈指針に基づく費用に基づき算出された基礎 ROTE

株主重視の報酬へ

2021 年 9 月 21 日: 5 億 5,900 万ユーロの第 1 回自社株買いを完了

2021 年 10 月 5 日: 5 億ユーロの第 2 回自社株買いに着手

2021 年 11 月 16 日: スイッチの 100%を解消 (CET1 影響: -60 ベーシス・ポイント、³通期純利益影響額: 1 億 400 万ユーロ)

→ 50%の現金配当政策目標は MTP の期間にわたって維持されます

顧客重視型ユニバーサル・バンキング・モデルの強化

買収や事業提携、及び新規事業の立ち上げにより持続的に刷新される有機的成長の可能性

→ フランスで CA Mobility、CA CF/CAL&F の長期自動車リースサービスを開始

→ ビジネス機器管理サービス提供を目的とした CAL&F による Olinn の買収

→ ドイツでリース事業を開始

2019 年以降: クレディ・ヴァルテッリネーゼ、KAS バンク、GNB セグロス、サバデル AM の買収、アムンディ・テクノロジー及びアムンディ・バンク・オブ・チャイナ JV の設立、バンコ・サバデル、アバンカとの事業提携、アズコールとの契約拡大

気候へのコミットメント

クレディ・アグリコル・グループ

- ⇒ 当グループの全事業部門がネットゼロ・イニシアチブへのコミットメントを表明
(ネットゼロ・バンキング・アライアンス、ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンス)
- ⇒ フランスで再生可能エネルギーへの融資で第 1 位
- ⇒ ヨーロッパで責任投資家として第 1 位

クレディ・アグリコル S.A.

- CACIB: 2025 年までに非炭素エネルギーの使用を 60% 増
- アムンディ: 2025 年までにプラスの影響を与えるファンドへ 200 億ユーロを投資
- CAA: 2025 年までに再生可能エネルギー設備への投資を倍増
- CACIB: 2025 年までに原油生産融資を 20%削減

ドミニク・ルフェーブル

SAS Rue La Boétie の会長兼クレディ・アグリコル S.A.の取締役会議長

「当グループは、存在意義と財務力を基盤として、全ての人にとっての進歩をもたらす新たな繁栄モデルのための条件を創出したいと考えています。我々は、気候、農業及び農産食品産業並びに社会的結束に対する我々の社会的コミットメントを 2021 年 12 月 1 日に発表します。」

フィリップ・ブラサック

クレディ・アグリコル S.A.最高経営責任者

「これまでの四半期と同様に、当四半期の業績は過去最高の素晴らしいものとなりました。景気は好調で、特に効果的な公的措置に後押しされています。当グループの顧客重視型ユニバーサル・バンキング・モデルは、着実な収益成長を可能にし、当セクターにおいて欧州で最高水準の収益率を実現しています。」

³ 2021 年 9 月末時点の CET1 水準及びリスク・ウェイト資産に基づいて推定、影響については 2021 年度第 4 四半期に認識予定

クレディ・アグリコル・グループ

当グループの活動

当グループの事業部門の営業活動は、顧客重視型ユニバーサル・バンキング・モデルの強みを反映し、当四半期も堅調に推移しました。顧客獲得総数は特に力強く推移しました。2021 年度 9 ヶ月累計期間、当グループは 131 万 1,000 人のリテール・バンキングの新規顧客を記録し、この内訳は 120 万 2,000 人がフランス（地域銀行が 93 万 4,000 人）、10 万 9,000 人がイタリアで、顧客基盤は引き続き拡大しました（リテール・バンキングが 24 万 5,000 人増）。2021 年度第 3 四半期、当グループは 40 万 5,000 人のリテール・バンキングの新規顧客を獲得し、この内訳は 37 万 4,000 人がフランス（地域銀行が 28 万 7,000 人）、3 万 2,000 人がイタリアで、顧客基盤も成長しています（8 万 2,000 人増）。フランスのリテール・バンキング部門のローン組成は大幅に増加し、2019 年度第 3 四半期比で 5.2%増⁴となりました（地域銀行で 14.5%増⁴、LCL で 45.5%増⁵）。損害保険事業の保険料収入も大幅に増加した（2019 年度第 3 四半期比 15.0%増）一方で、消費者金融の組成は同期比でほぼ横這いとなりました。地域銀行、LCL 及び CA イタリアのクロスセル・レートは、2020 年 9 月 30 日現在、それぞれ 42.7%、26.5%及び 18.8%となり、2019 年末比（それぞれ 2.0 ポイント増、1.5 ポイント増及び 3.4 ポイント増）、2018 年末比（それぞれ 6.5 ポイント増、2.8 ポイント増及び 5.1 ポイント増）で大幅に上昇しています。

顧客重視型ユニバーサル・バンキング・モデルによって培われた有機的な成長の可能性は常に刷新されており、今年初頭からは、ユニバーサル・バンクに将来の成長をもたらす買収と事業提携が行われています。

- クレディ・ヴァルテッリネーゼ: 2021 年 4 月 23 日のクレバルに対する株式公開買付けの成功により、当グループはイタリアに基準バンキング・グループを確立。連結は 2021 年第 2 四半期に実施
- リクソー: 同社の買収により、アムンディは欧州における ETF 運用で首位に。2021 年末までに買収完了予定
- Olinn: クレディ・アグリコル・リーシング・アンド・ファクタリングは当四半期に同社の買収を発表。ビジネス機器管理サービス提供を目的とした買収。

この成長の可能性は、以下を初めとする新規事業の立ち上げによっても支えられています。

- インドスエズ・ウェルス・マネジメントの子会社であるアズコールは、2021 年 1 月にソシエテ・ジェネラルと、プライベートバンクであるソシエテ・ジェネラルのバックオフィス業務と IT サービスの大部分を国際的に実施する契約を締結しました。
- アムンディが 2020 年に設立したテクノロジー・サービス事業部門であるアムンディ・テクノロジーは、1 億 5,000 万ユーロの収益を 2025 年までに達成することを目標としています。
- CA コンシューマー・ファイナンスと CAL&F が共同で提供する CA Mobility は、個人及び中小企業向けの長期自動車リースサービスで、当四半期にフランスで開始しました。
- 市場の創出により、当四半期にドイツでリース事業を開始しました。

⁴ 2020 年度第 3 四半期の国家保証融資（26 億ユーロ）を除く、2021 年度第 3 四半期についてはほぼなし

⁵ 国家保証融資を除く

当グループの業績

2021 年度第 3 四半期に、クレディ・アグリコル・グループの表示純利益グループ帰属分は、2020 年度第 3 四半期の 17 億 6,900 万ユーロに対して 25.7%増の **22 億 2,200 万ユーロ**となりました。当四半期に、特殊要因は純利益グループ帰属分に対して **1,200 万ユーロのマイナス影響**をもたらしました。

当四半期の特殊要因には、DVA(債務評価調整、すなわち当グループの発行体スプレッドの変動に関連する金融商品の損益)の純利益グループ帰属分へのプラス影響 300 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジの純利益グループ帰属分へのマイナス影響 400 万ユーロなどの、収益における変動の大きい経常的な会計項目が含まれています。これらの経常項目に追加されるその他の要因は以下のとおりです：セルビアの資産の売却目的への分類(収益影響マイナス 200 万ユーロ、費用でマイナス 100 万ユーロ、売却目的保有資産の純利益でマイナス 100 万ユーロ、よって純利益グループ帰属分への影響総額マイナス 400 万ユーロ)、クレバルの統合費用(営業費用でマイナス 900 万ユーロ、純利益グループ帰属分でマイナス 400 万ユーロ)、及びターボ・プロジェクトに関連する CACEIS における構造改革費用の引当(費用でマイナス 500 万ユーロ、純利益グループ帰属分でマイナス 300 万ユーロ)。

2020 年度第 3 四半期の特殊要因は、純利益グループ帰属分へのマイナスの影響 1 億 6,500 万ユーロを表しており、企業の売却目的への再分類(CACF NL、バンコア、Nacarat)で純利益グループ帰属分への影響総額マイナス 1 億 7,000 万ユーロ、CACEIS が最近買収した企業(Kas バンク及びサンタンデール・セキュリティーズ・サービスズ)の統合費用で純利益グループ帰属分への影響マイナス 200 万ユーロ、及び変動の大きい経常的な会計項目で純利益グループ帰属分への影響純額プラス 700 万ユーロが含まれていました。

これらの特殊要因を除いた **2021 年度第 3 四半期のクレディ・アグリコル・グループの基礎純利益グループ帰属分⁶**は、前年同期比 15.6%増の **23 億 3,500 万ユーロ**でした。基礎純利益グループ帰属分の当四半期の増加は 3 億 100 万ユーロで、この増加は、営業総利益(1 億 6,700 万ユーロ)の増加並びにリスク関連費用の低下によるプラス影響(1 億 9,300 万ユーロ)が原動力となっています。

クレディ・アグリコル・グループ — 表示実績と基礎的実績(2021 年度第 3 四半期と 2020 年度第 3 四半期)

€m	Q3-21 stated	Specific items	Q3-21 underlyin g	Q3-20 stated	Specific items	Q3-20 underlyin g	Δ Q3/Q3 stated	Δ Q3/Q3 underlyin g
Revenues	8,969	(4)	8,972	8,468	8	8,460	+5.9%	+6.1%
Operating expenses excl.SRF	(5,452)	(15)	(5,438)	(5,096)	(4)	(5,093)	+7.0%	+6.8%
SRF	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Gross operating income	3,516	(18)	3,535	3,372	4	3,368	+4.3%	+5.0%
Cost of risk	(403)	-	(403)	(596)	0	(596)	(32.3%)	(32.3%)
Equity-accounted entities	107	-	107	88	-	88	+22.2%	+22.2%
Net income on other assets	(14)	1	(15)	(6)	-	(6)	x 2.4	x 2.6
Change in value of goodwill	(2)	-	(2)	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	3,205	(17)	3,222	2,858	4	2,854	+12.1%	+12.9%
Tax	(792)	5	(797)	(743)	(0)	(742)	+6.6%	+7.3%
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	(3)	(1)	(1)	(170)	(170)	(0)	(98.4%)	x 3.8
Net income	2,410	(14)	2,424	1,945	(166)	2,111	+23.9%	+14.8%
Non controlling interests	(187)	2	(189)	(177)	1	(177)	+6.1%	+6.7%
Net income Group Share	2,222	(12)	2,235	1,769	(165)	1,934	+25.7%	+15.6%
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	60.8%		60.6%	60.2%		60.2%	+0.6 pp	+0.4 pp

⁶ 特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

2021 年度第 3 四半期の**基礎収益**は、全事業部門における安定したモメンタムにより、2020 年度第 3 四半期に比べて 6.1%増加し、89 億 7,200 万ユーロとなりました。連結範囲変更影響⁷を除くと、基礎収益は 2020 年第 3 四半期比で 3.9%増、2019 年度第 3 四半期比で 6.1%増となりました。アセット・ギャザリング部門は、活発な市況と連動して運用手数料収入が伸びたことにより、10.7%の増収(1 億 5,200 万ユーロ増)を記録しました。保険部門は、特に軽減税率適用の有価証券処分後の非常に高い金融収益のおかげで、健全な金融業務マージン管理の一環として保険契約者配当準備金(PPE)を強化することができました。大口顧客部門は、ボラティリティの低下を背景に資本市場における収益が正常化し、2020 年度第 3 四半期から 2.3%減収(3,700 万ユーロ減)となりました。この影響の一部は、ストラクチャード・ファイナンス及び商業銀行業務の収益に加え、プラスの市場効果の恩恵を受けた資産運用サービスからの手数料収入の力強い伸びにより相殺されました。専門金融サービス部門の収益は、CACF NL が過去 2 年間で最高の四半期業績を記録し、CAL&F が素晴らしいリース及びファクタリング事業の恩恵を受けたことにより、13.8%増加し(売却目的保有資産からの CACF NL の除外を含む⁸)、連結範囲変更影響を除くと 5.5%増となりました。フランスのリテール・バンキング部門では、地域銀行の収益が 2020 年度第 3 四半期から 3.0%増加し、LCL も当四半期に 5.1%の増収となりました。国際リテール・バンキングでは、CA イタリアが大幅な増収を記録しました(32.6%増、2021 年度第 2 四半期からのクレジット・ヴァルテツリネーゼの連結による連結範囲の変更影響を除くと 1.1%増⁹)。これは、管理貯蓄及び保険からの手数料収入が力強い伸びをみせたことによるものです。イタリアを除く国際リテール・バンキングでは、CA ポーランド及び CA ウクライナの好調な業績にけん引され、収益が 4.8%回復しました(当四半期に売却目的保有資産に再分類されたセルビアを除くと 27%増)。

単一破綻処理基金(SRF)への拠出を除いた基礎営業費用は、2021 年度第 3 四半期には 54 億 3,800 万ユーロとなり、前年同期比で 6.8%増加しました。全部門で、主に連結範囲の変更影響に伴う費用の増加が報告されました。この影響を除くと⁷、費用は 2020 年第 3 四半期比で 3.7%増、2019 年度第 3 四半期比で 2.0%増となりました。フランスのリテール・バンキング部門の費用は、主に任意的及び強制的なプロフィット・シェアリングの増加により、2020 年度第 3 四半期から 1.8%増加して 27 億 1,200 万ユーロとなりました。国際リテール・バンキング部門の費用は、クレバルの統合により 20.5%増加しましたが、連結範囲変更の影響を除くとほぼ横這いでした。専門金融サービス部門の費用は 28.2%増となり、CACF NL を除くと 5.2%増でした。大口顧客部門の費用は、事業成長を支える労働力への投資及び能力開発の結果、前年同期比 3.3%増(2,800 万ユーロ増)と緩やかな増加となりました。アセット・ギャザリング部門では、費用が 12.1%増加しましたが、これは連結範囲の変更影響(サバデル AM の統合、アムンディ・バンク・オブ・チャイナ及びファンド・チャネルの設立)に加え、アムンディ・テクノロジーの拡大に関する継続的投資によるものです。

全体として、当グループの SRF を除いた基礎コスト比率は 2021 年度第 3 四半期には 60.6%となり、0.4 ポイントの上昇と安定しています。

基礎営業総利益は、前年同期比 5.0%増加して 35 億 3,500 万ユーロとなりました。連結範囲変更影響⁷を除くと、SRF を除く営業総利益は 2020 年度第 3 四半期比で 4.2%増、2019 年度第 3 四半期比で 12.8%増となりました。

信用リスク関連費用は、4 億 300 万ユーロ(ステージ 1 及びステージ 2 の正常債権に対するリスク関連費用 1 億 1,600 万ユーロ並びにステージ 3 のリスク関連費用 2 億 8,700 万ユーロを含む)となり、2020 年度第 3 四半期の 5 億 9,600 万ユーロ及び 2021 年度第 2 四半期の 4 億 4,500 万ユーロに比べ、それぞれ 32%及び 9%減少しました。正常債権に対するリスク関連費用は、2021 年度第 2 四半期と比較して 51%減となり、LCL を除く(ポートフォリオ変更のため)全部門で同様の傾向が見られ、特に地域銀行ではこの傾向が顕著でした(2021 年度第 3 四半期の正常債権に対するリスク関連費用は 59%減の 8,800 万ユーロ。対して、2021 年度第 2 四半期は 2 億 1,400 万ユーロ)。確認されているリスク関連費用に対する引当は、2021 年度第 2 四半期の 1 億 7,200 万ユーロから 67%増加し、2 億 8,700 万ユーロとなりました。2020 年度第 3 四半期との比較では、33%減少しました。2021 年度第 2 四半期からの増加は、地域銀行(5,200 万ユーロの繰入に対し、前四半期の 2,700 万ユーロの戻入)及びファイナンス事業

⁷ 同一基準ベースの計算における 2021 年度の連結範囲対象外企業:クレバル、CA セルビア、JV アムンディ・バンク・オブ・チャイナ、ファンド・チャネル、アナテック、サバデル、CACF NL、ソー・ユー、KAS バンク、バンコア。2020 年度の連結範囲対象外企業:CA セルビア、Via Vita、IWM マイアミとブラジル、CACF NL、バンコア。2019 年度の連結範囲対象外企業:CA セルビア、CA ルーマニア、Via Vita、IWM マイアミとブラジル、CACF NL、バンコア

⁸ これにより、CACF NL の 2021 年度 9 ヶ月累計期間の収益は CA コンシューマー・ファイナンスの 2021 年度第 3 四半期収益に含まれる

⁹ 2021 年度第 2 四半期のクレバルの初度連結に関連した連結範囲の変更影響を除く

(2,000 万ユーロの繰入に対し、前四半期の 1,300 万ユーロの戻入)で顕著でした。資産の質は引き続き良好で、要注意債権比率は 2021 年 9 月末で 2.2%となり(2021 年 6 月に比べ 0.1 ポイント低下)、要注意債権引当率は 87.1%に改善されました(1.6 ポイント上昇)。貸倒引当金は、2021 年 9 月末現在で 204 億ユーロとなり、このうち 35%は正常債権(ステージ 1 及びステージ 2)に対する引当金でした。貸倒引当金は 2021 年 6 月に比べ、1 億ユーロとわずかに増加しました。グローバル経済情勢に関連する状況と不確実性が考慮されるようになり、また、将来のリスクを見越して政府施策の予想効果が織り込まれました。引当水準は、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、リテール・バンキング部門のポートフォリオには一律の調整を適用し、センシティブ・セクターの顧客には特定の加算を適用して設定されました。正常債権に対する引当を決定するために、いくつかの加重経済シナリオが用いられています。これらは 2020 年の共通発行者情報の発行以降更新され、より楽観的なシナリオ(フランスの GDP は 2021 年に 5.9%成長、2022 年に 5.3%成長)と、それほど楽観的ではないシナリオ(フランスの GDP は 2021 年に 2.7%成長、2022 年に 3.3%成長)を含んでいます。しかし、これらは 2021 年度第 3 四半期には更新されていません。

残高に対するリスク関連費用¹⁰はローリング 4 四半期で正常化を続け、23 ベーシス・ポイントとなりました(2021 年度第 2 四半期比で 2 ベーシス・ポイント減)。年換算の四半期ベースでは 16 ベーシス・ポイントとなりました¹¹(これに対して 2021 年度第 2 四半期は 18 ベーシス・ポイント)。

当四半期の**税引前基礎利益は、前年同期比 12.9%増の 32 億 2,200 万ユーロ**でした。税引前基礎利益には、上記の変動に加えて、持分法適用会社の寄与 1 億 700 万ユーロ(アムンディ及び CA コンシューマー・ファイナンスの持分法適用会社の堅調な業績により 22.2%増)及び他の資産に関する純利益マイナス 1,500 万ユーロ(前年同期はマイナス 600 万ユーロ)が含まれています。基礎**税金費用は、前年同期と比べて 7.3%増**となりました。これは税引前基礎利益の増加が原動力となり、2020 年度第 3 四半期(26.8%)から低下した基礎税率 25.6%と相殺された結果です。実際のところ、税率は四半期ベースでは有意義なものではありません。非支配持分控除前の基礎純利益は 14.8%増加して 24 億 2,400 万ユーロとなりました。非支配持分は 6.7%増加しました。最後に、当四半期の基礎純利益グループ帰属分は 2020 年度第 3 四半期に比べ大幅に増加(15.6%増)して 22 億 3,500 万ユーロとなりました。

¹⁰ ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用(ベーシス・ポイント)は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

¹¹ 年換算の残高に対するリスク関連費用(ベーシス・ポイント)は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

クレディ・アグリコル・グループ — 表示実績と基礎的実績(2021 年度 9 ヶ月累計期間と 2020 年度 9 ヶ月累計期間)

€m	9M-21 stated	Specific items	9M-21 underlying	9M-20 stated	Specific items	9M-20 underlying	Δ 9M/9M stated	Δ 9M/9M underlying
Revenues	27,322	(28)	27,350	24,930	(444)	25,375	+9.6%	+7.8%
Operating expenses excl.SRF	(16,493)	(50)	(16,443)	(15,680)	(78)	(15,602)	+5.2%	+5.4%
SRF	(479)	185	(664)	(562)	-	(562)	(14.7%)	+18.2%
Gross operating income	10,350	106	10,244	8,688	(523)	9,211	+19.1%	+11.2%
Cost of risk	(1,410)	(25)	(1,385)	(2,733)	-	(2,733)	(48.4%)	(49.3%)
Equity-accounted entities	299	5	294	256	-	256	+17.0%	+15.0%
Net income on other assets	(37)	(15)	(22)	78	-	78	n.m.	n.m.
Change in value of goodwill	378	378	0	(3)	-	(3)	n.m.	n.m.
Income before tax	9,580	449	9,131	6,286	(523)	6,809	+52.4%	+34.1%
Tax	(2,193)	179	(2,372)	(1,531)	148	(1,679)	+43.2%	+41.2%
Net income from discount'd or held-for-sale ops.	2	3	(1)	(171)	(170)	(1)	n.m.	+39.1%
Net income	7,389	631	6,758	4,584	(545)	5,128	+61.2%	+31.8%
Non controlling interests	(642)	(86)	(556)	(424)	4	(428)	+51.5%	+30.0%
Net income Group Share	6,746	545	6,201	4,159	(541)	4,700	+62.2%	+31.9%
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	60.4%		60.1%	62.9%		61.5%	-2.5 pp	-1.4 pp

2021 年度 9 ヶ月累計期間の表示純利益グループ帰属分は、前年同期の 41 億 5,900 万ユーロから 62.2%増加して 67 億 4,600 万ユーロとなりました。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の特殊要因は、表示純利益グループ帰属分に 5 億 4,500 万ユーロのプラスの影響を与えました。前述の第 3 四半期の項目に加えて、2021 年度上半期の項目には、5 億 5,700 万ユーロのプラスの影響があり、DVA のプラス 100 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジのマイナス 1,100 万ユーロ及び住宅購入貯蓄プラン引当金の変動影響マイナス 600 万ユーロなどの変動の大きい経常的な会計項目のほか、SRF への 2016 年度から 2020 年度までの拠出の過払金の影響プラス 1 億 8,500 万ユーロがありました。これらの経常項目には、2021 年度上半期の以下の特殊要因は含まれていません：クレバルの仮の負ののれん純額プラス 3 億 2,100 万ユーロの純利益グループ帰属分への計上、クレバルの買収費用マイナス 900 万ユーロ、クレバルの正常債権残高に対する 2,100 万ユーロの追加引当、アセット・ギャザリング部門、国際リテール・バンキング及び専門金融サービス部門内の Affrancamento の利益総額 1 億 1,600 万ユーロ、LCL における追加的な支店統合である LCL 新世代ネットワークプロジェクト及びターボ・プロジェクト、CACEIS の変革及び成長計画に関連する変革コストがマイナス 1,800 万ユーロ、CACEIS による Kas バンク及び S3 の統合費用マイナス 200 万ユーロ及びマイアミとブラジルのウェルス・マネジメント事業の計画処分プラス 200 万ユーロ。

2020 年度 9 ヶ月累計期間の特殊要因は、純利益グループ帰属分に 5 億 4,100 万ユーロのマイナスの影響を与えました。

これらの特殊要因を除いた基礎純利益グループ帰属分は、前年同期比 31.9%増の 62 億 100 万ユーロでした。

基礎収益は、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 7.8%増加し、連結範囲変更影響⁷を除くと 6.7%増となりました。

SRF を除いた基礎営業費用は、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 5.4%増加し(連結範囲変更の影響を除くと 4.2%増)、プラスの乖離効果を生み出しました。当上半期の SRF を除いたコスト比率は 60.1%となり、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 1.4 ポイント低下しました。基礎営業総利益は、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 11.2%増の 102 億 4,400 万ユーロでした(SRF を除いた連結範囲変更の影響⁷を除くと 10.7%増)。

最後に、**リスク関連費用**は大幅に減少しました(2020 年度 9 ヶ月累計期間の 27 億 3,300 万ユーロから 49.3%減の 13 億 8,500 万ユーロ)。

地域銀行

2021 年度第 3 四半期の地域銀行の活動は活発でした。顧客獲得総数は大幅に増加し(年初から 93 万 4,000 人増)、顧客基盤は 19 万 6,000 人増となりました。自動車/住宅/健康保険¹²におけるクロスセル・レートも増加し(2020 年 9 月末比 1.2 ポイント上昇)、2021 年 9 月末には 42.7%に達しました。モバイルアプリの利用率¹³は 2020 年 9 月と比較して 3.3 ポイント上昇し、69.5%に達しました(2019 年 9 月と比較して 7.2 ポイント上昇)。貸出残高は 2021 年 9 月末で 5,880 億ユーロとなり、前年同期比で 6.3%増となりました(そのうち、住宅ローンが 7.5%増、企業向け貸付が 6.9%増)。これは、当四半期の活発なローン組成(2020 年度第 3 四半期比 14.5%増¹⁴。そのうち 15.9%¹⁴は専門市場が占める¹⁵)が主な要因です。オン・バランスシート預金は、要求払預金(11.8%増)及びパスブック(11.6%増)が原動力となって大幅に増加し(2020 年 9 月末から 7.7%増)、同様に、オフ・バランスシート預金も 2020 年 9 月末から 6.2%増となりました(生命保険の 3.6%増を含む)。その結果、顧客資産合計は 2021 年 9 月末現在で 8,260 億ユーロとなり、2020 年 9 月末から 7.2%増加しました。

2021 年度第 3 四半期に、地域銀行の基礎収益は前年同期に比べ 3.0%増加して 34 億 800 万ユーロとなりました。この増収の主要因は、保険及びアカウントマネジメント/支払手段において活発であった金利マージン(純額)(1.7%増)及び手数料収入(4.6%増)でした。SRF(単一破綻処理基金)を除く基礎営業費用は抑制されており、2021 年度第 3 四半期は前年同期に比べ 1.5%増加して 21 億 4,600 万ユーロとなりました。その結果、SRF を除いた基礎コスト比率は 63.0%と改善し(2020 年度第 3 四半期と比較して 1 ポイント低下)、基礎営業総利益は、前年同期に比べ 5.8%増加しました。リスク関連費用は、2020 年度第 3 四半期(2,200 万ユーロ)から増加(6.1 倍)し、1 億 3,600 万ユーロ¹⁶となりました。不良債権比率は引き続き抑制され(2021 年 9 月末の 1.6%に対し、2021 年 6 月末で 1.7%)、不良債権引当率は引き続き高い水準となっています(2021 年 9 月末の 103.5%に対し、2021 年 6 月末で 102.3%)。税金の寄与は、主に現行税率の引き下げにより、2020 年度第 3 四半期と比較して減少しました(15.7%減)。概して、基礎純利益グループ帰属分に対する地域銀行の貢献は、2020 年度第 3 四半期から 1.9%増加し、7 億 9,000 万ユーロとなりました。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益は 104 億 1,500 万ユーロとなり、前年同期に比べ 5.7%増加しました。2021 年度 9 ヶ月累計期間の SRF を除く基礎営業費用は、主に人件費の上昇により(主にプロフィット・シェアリング)前年同期に比べて 4.0%増加しました。その結果、SRF を除いた基礎コスト比率は改善し(2020 年度 9 ヶ月累計期間と比較して 1 ポイント低下し 63.8%)、基礎営業総利益は急増しました(2020 年度 9 ヶ月累計期間と比較して 8.4%増)。2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎リスク関連費用は 4 億 7,600 万ユーロとなり、前年同期に比べ 24.1%減少しました。最後に、2021 年度 9 ヶ月累計期間の地域銀行による基礎純利益グループ帰属分への寄与は 21 億 8,600 万ユーロとなり、前年同期に比べ急増しました(24.2%増)。

クレディ・アグリコル・グループの他の事業部門の業績については、本プレスリリースのクレディ・アグリコル S.A.に関するセクションに記述されています。

¹² クロスセル・レート - 自動車、住宅、健康、法務、全ての携帯電話または個人傷害保険

¹³ Ma Banque アプリでアクティブなプロフィールを持っているか、その月に CAEL (CA オンライン)にアクセスした顧客の数の、アクティブな要求払預金口座を持っている成人顧客の数に対する割合。

¹⁴ 2020 年度第 3 四半期の国家保証融資(26 億ユーロ)を除く、2021 年度第 3 四半期についてはほぼなし

¹⁵ 専門市場: 農業者、SME 及びスモールビジネス、企業並びに地方自治体。

¹⁶ 2021 年度第 3 四半期に、残高に対するリスク関連費用はローリング 4 四半期で 16 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベースで 9 ベーシス・ポイントでした

クレディ・アグリコル S.A.

活発な営業活動、顧客獲得の勢い

- 全資産クラスのアクティブ運用(プラス 111 億ユーロ)を主要因とした中長期資金の力強い純流入(プラス 15.0%)、及び保険の純流入(ユニット・リンク型商品のプラス 14 億ユーロが主要因となりプラス 11 億ユーロ)により、損害保険(第 3 四半期で前年同期比 5.6%増)及び個人保障(第 3 四半期で前年同期比 7.4%増)の事業の勢いは継続
- 危機後の市況の正常化を背景とした、ストラクチャード・ファイナンス及び商業銀行業務を主とするファイナンス事業の順調な業績(第 3 四半期は前年同期比 13.0%増)。シンジケート・ローンでは主導的地位(フランスで第 1 位、EMEA で第 3 位)、資産運用サービスは大量のフロー。
- CA コンシューマー・ファイナンスにおけるパンデミック前の消費者金融、好調なリース及びファクタリング活動。CAL&F がサービス拡大のために Olinn を買収。CA コンシューマー・ファイナンス/CAL&F による、フランスの個人及び中小企業向けの長期リースサービス CA Mobility を開始。
- LCL における全市場のローン組成の力強い成長(第 3 四半期は前年同期比 45.5%増)、CA イタリアにおけるプラスの売上のモメンタム及びグループのユニバーサル・バンキング・モデルへのクレパルの統合。損害保険事業のクロスセル上昇(2018 年度末比で LCL は 2.8 ポイント増、CA イタリアは 5.1 ポイント増)。
- クレディ・アグリコル S.A.9 ヶ月のリテール・バンキング顧客獲得+37 万 7,000 人¹⁷

収益が要因で基礎利益は増加(第 3 四半期は前年同期比 26.7%増、9 ヶ月累計期間は前年同期比 37.9%増)

- 表示純利益: 第 3 四半期は前年同期比 43.5%増、9 ヶ月累計期間は前年同期比 71.9%増
- 資産運用におけるプラスの市場効果、過去 5 年間にわたる安定した増収、収益に占める手数料収入の割合増加を要因とした基礎収益の増加(第 3 四半期は前年同期比 7.6%増、連結範囲の変更影響を除いた場合は、第 3 四半期が前年同期比 4.4%増及び 9 ヶ月累計期間が前年同期比 7.3%増)
- 費用の増加(第 3 四半期は前年同期比 8.6%増、連結範囲の変更影響を除いた場合は、第 3 四半期が前年同期比 3.8%増、9 ヶ月累計期間が前年同期比 3.4%増)。9 ヶ月累計期間におけるプラスの乖離効果。活動及び IT 投資と連動した変動報酬の増加を主要因とした、この影響を除いた費用の増加
- 業務効率: コスト比率 58.6%(2021 年度第 3 四半期)及び 57.2%(2021 年度 9 ヶ月累計期間)、アセット・ギャザリング部門、大口顧客部門及び LCL の MTP 目標は達成
- 営業総利益の増加(第 3 四半期は前年同期比 6.2%増、連結範囲の変更影響¹⁸を除いた場合は、第 3 四半期が前年同期比 5.3%増、9 ヶ月累計期間が前年同期比 13.0%増)。
- 第 3 四半期の不良債権比率は第 2 四半期からほぼ横這いで、不良債権引当率の上昇を維持。残高に対する年換算リスク関連費用は 24 ベーシス・ポイント。
- 2021 年度 9 ヶ月累計期間における基礎 ROTE は 13.1%¹⁹で、数値を公表している欧州の大手銀行 10 行の平均値を過去 18 四半期にわたって上回る

非常に強固な資本の状態、株主重視の報酬政策へ

- クレディ・アグリコル S.A.の CET1 レシオは 12.7%で、SREP 要件を 4.8 ポイント上回り、第 1 四半期対比で 0.1 ポイント上昇、50%の現金配当政策に基づいた 9 ヶ月累計期間の配当準備金 0.61 ユーロ。

¹⁷ LCL、CA イタリア、ビー・フォー・バンク

¹⁸ SRF を除く営業総利益。2021 年度の連結範囲対象外企業: クレパル、CA セルビア、JV アムンディ・バンク・オブ・チャイナ、ファンド・チャネル、アナテック、CACF NL、ソー・ユー、KAS バンク。2020 年度の連結範囲対象外企業: CA セルビア、Via Vita、IWM ブラジルとマイアミ、CACF NL。第 3 四半期の営業総利益は、連結範囲変更の影響により、前年同期比 2,200 万ユーロ増に。9 ヶ月累計期間の営業総利益は、連結範囲変更の影響により、前年同期比 8,600 万ユーロ増に。

¹⁹ 年換算後の基礎純利益グループ帰属分及び年換算後の IFRIC 解釈指針に基づく費用に基づき算出された基礎 ROTE

- クレディ・アグリコル S.A.の資本構造簡素化の最終段階
 - リマインダー:2021 年 3 月 1 日:保険スイッチの 15%を解消
 - 2021 年 9 月 21 日:5 億 5,900 万ユーロの第 1 回自社株買いを完了
 - 2021 年 10 月 5 日:5 億ユーロの第 2 回自社株買いに着手
 - 2021 年 11 月 16 日:スイッチの 100%を解消(CET1 影響:マイナス 60 ベーシス・ポイント、純利益グループ帰属分当期影響額:1 億 400 万ユーロ)
- これらの取引による 2021 年の 1 株当たり利益への影響はプラス 1%²⁰
- 50%の現金配当政策は MTP の期間にわたって維持されます

2021 年度第 3 四半期の財務諸表を検証するため、ドミニク・ルフェーブルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2021 年 11 月 9 日に開かれました。

業績

クレディ・アグリコル S.A. — 表示実績と基礎的実績(2021 年度第 3 四半期と 2020 年度第 3 四半期)

€m	Q3-21 stated	Specific items	Q3-21 underlying	Q3-20 stated	Specific items	Q3-20 underlying	Δ Q3/Q3 stated	Δ Q3/Q3 underlying
Revenues	5,531	(4)	5,535	5,151	8	5,143	+7.4%	+7.6%
Operating expenses excl.SRF	(3,259)	(14)	(3,245)	(2,991)	(4)	(2,988)	+9.0%	+8.6%
SRF	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Gross operating income	2,272	(18)	2,290	2,160	4	2,156	+5.2%	+6.2%
Cost of risk	(266)	-	(266)	(605)	(28)	(577)	(56.1%)	(54.0%)
Equity-accounted entities	103	-	103	98	-	98	+4.6%	+4.6%
Net income on other assets	(8)	1	(9)	(3)	-	(3)	x 2.7	x 3.1
Change in value of goodwill	0	-	0	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	2,101	(17)	2,118	1,650	(23)	1,674	+27.3%	+26.6%
Tax	(470)	5	(474)	(346)	8	(354)	+35.9%	+33.9%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	(3)	(1)	(1)	(125)	(124)	(0)	n.m.	n.m.
Net income	1,628	(14)	1,642	1,180	(139)	1,319	+38.0%	+24.5%
Non controlling interests	(226)	2	(229)	(203)	1	(204)	+11.4%	+12.3%
Net income Group Share	1,402	(12)	1,414	977	(139)	1,115	+43.5%	+26.7%
Earnings per share (€)	0.43	(0.00)	0.43	0.32	(0.05)	0.36	+35.2%	+18.4%
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	58.9%		58.6%	58.1%		58.1%	+0.9 pp	+0.5 pp
Net income Group Share excl. SRF	1,402	(12)	1,414	977	(139)	1,115	+43.5%	+26.7%

2021 年度第 3 四半期に、クレディ・アグリコル S.A.の表示純利益グループ帰属分は、2020 年度第 3 四半期の 9 億 7,700 万ユーロに対して 43.5%増加し、14 億 200 万ユーロとなりました。

当四半期の特殊要因には、DVA(債務評価調整、すなわち当グループの発行体スプレッドの変動に関連する金融商品の損益)の純利益グループ帰属分へのプラス影響 300 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジの純利益グループ帰属分へのマイナス影響 400 万ユーロなどの、収益における変動の大きい経常的な会計項目が含まれています。これらの経常項目に追加されるその他の要因は以下のとおりです:クレディ・ヴァルテッリネーゼの買収費用が純利益グループ帰属分でマイナス 400 万ユーロ、CAセルビアの売却目的保有資産への再分類(IFRS 第 5 号)が純利益グループ帰属分及びターボ・プロジェクトに関する構造改革費用の引当でマイナス 400 万ユーロ、CACEIS の変革と成長計画が、費用でマイナス 500 万ユーロ及び純利益グループ帰属分でマイナス 300 万ユーロ。2020 年度第 3 四半期には、特殊要因が純利益グループ帰属分に対して 1 億 3,900 万ユーロのマイナス影響を及ぼしました。具体的には、DVA の影響 1,400 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジのマイナス影響 500 万ユーロ、住宅購入貯蓄プラン引当金の変動のマイナス影響 300 万ユーロ、KAS バンク及び S3 の統合費用のマイナス影響

²⁰ 2021 年に完了または公表された取引を調整した 2020 年基礎 EPS から計算

200 万ユーロ、スイッチ保険の発動のマイナス影響 1,900 万ユーロ、CACF NL の IFRS 第 5 号に基づく格下げ(内訳: のれんの減損のマイナス影響 5,500 万ユーロ、IFRS 第 5 号適用のマイナス影響 6,900 万ユーロ)などの変動の大きい経常的な会計項目が含まれます。

これらの特殊要因を除くと、**基礎純利益グループ帰属分**²¹は 14 億 1,400 万ユーロに達し、特に全ての事業の持続的な活動、継続する良好な市場効果、及びリスク関連費用の削減により、2020 年度第 3 四半期と比較して 26.7% の大幅な増加となりました。

2021 年度第 3 四半期の**基礎収益**は 55 億 3,500 万ユーロに達し、2020 年度第 3 四半期比 7.6%増、同一基準ベースで 4.4%増²²となりました。過去 5 年にわたり、クレディ・アグリコル S.A.の四半期収益は増加し続けています。

アセット・ギャザリング部門の収益(2020 年度第 3 四半期比 11.3%増)は増加しました。これは、保険部門の金融マージンの健全な外部化にもかかわらず、資産運用におけるプラスの市場効果の恩恵を受け、手数料収入が好調に伸びたのが主要因となっています。大口顧客部門の収益は 2020 年度第 3 四半期から減少(2.4%減)しました。これは、ボラティリティの低下並びにストラクチャード・ファイナンス及び商業銀行業務の収益の力強い回復、資産運用サービスの手数料収入に対するプラスの市場効果を背景に、資本市場における収益が正常化したことによるものです。専門金融サービス部門では、収益は大幅に増加しました(2020 年度第 3 四半期比 13.8%増、CACF NL を除くと 5.5%増)。CA コンシューマー・ファイナンスの²³収益は、活動の勢いにより当四半期に最高水準に達し、リース及びファクタリング活動が活発でした。リテール・バンキング部門の収益は、LCL における金利マージン及び手数料収入、クレディ・アグリコル・イタリアの好調な手数料収入が貢献し、2020 年度第 3 四半期に比べ 12.0%の増収となり、クレディ・アグリコル・イタリアにおけるクレジット・ヴァルテッリネーゼの連結の影響及びセルビアを除いた同一基準ベース²⁴でも 5.1%の増収となりました。コーポレート・センター部門では、2020 年度第 3 四半期に対し、収益は安定していました。

2021 年度第 3 四半期の **SRF を除く基礎営業費用**は、前年同期に比べ 8.6%増加して 32 億 4,500 万ユーロとなりました。連結の範囲を一定にした場合、²⁵この増加は 2020 年度と比較して 3.8%増にまで縮小し、具体的には、変動報酬の増加が原動力となった費用増 1 億 1,400 万ユーロ(増加全体の 50%、約 5,000 万ユーロ)、投資及び IT コスト(増加全体の 30%、約 3,500 万ユーロ)、その他人件費(増加全体の 20%、約 3,000 万ユーロ)及びその他雑費(約 1,000 万ユーロの減少)が含まれます。SRF を除いた当四半期のコスト比率²⁶は、前年同期に対して安定しており(0.5 ポイント改善)、58.6%と低水準となりました。よって、クレディ・アグリコル S.A.の 2021 年度第 3 四半期の乖離効果は、同一基準ベースでプラス 0.6 ポイントとなりました。中期計画の SRF を除くコスト比率目標²⁶はアセット・ギャザリング部門(MTP 目標<48%、2021 年度第 3 四半期は 47.0%、2021 年度 9 ヶ月累計期間は 46.1%)、大口顧客部門(MTP 目標<57%、2021 年度第 3 四半期は 58.6%、2021 年度 9 ヶ月累計期間は 56.7%)及び LCL(MTP 目標<66%、2021 年度第 3 四半期は 60.6%、2021 年度 9 ヶ月累計期間は 61.3%)ですすでに達成されています。アセット・ギャザリング部門では、継続的な成長投資及び変動報酬の引当金を含む資産運用の費用の増加(前年同期比 18.7%増)、及び事業成長投資及び人件費の増加による保険事業における増加(前年同期比 3.9%増)により、SRF を除く営業費用は 12.1%増となりました。大口顧客部門では、SRF を除く営業費用は、投資並びに法人営業及

²¹ 特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

²² 2021 年度の連結範囲対象外企業:クレバル、CA セルビア、JV アムンディ・バンク・オブ・チャイナ、ファンド・チャネル、アナテック、CACF NL、ソー・ユー、KAS バンク。2020 年度の連結範囲対象外企業:CA セルビア、Via Vita、IWM ブラジルとマイアミ、CACF NL。連結範囲変更の影響により、第 3 四半期の収益は、前年同期比 1 億 6,500 万ユーロ増。連結範囲変更の影響により、9 ヶ月累計期間の収益は、前年同期比 2 億 7,700 万ユーロ増。

²³ CACF NL を除く CA コンシューマー・ファイナンスの四半期収益。

²⁴ 2021 年度の連結範囲対象外企業:クレバル、CA セルビア。2020 年度の連結範囲対象外企業:CA セルビア。連結範囲変更の影響により、第 3 四半期の収益は前年同期比 1 億 600 万ユーロ増。連結範囲変更の影響により、9 ヶ月累計期間の収益は前年同期比 2 億 900 万ユーロ増。

²⁵ 2021 年度の連結範囲対象外企業:クレバル、CA セルビア、JV アムンディ・バンク・オブ・チャイナ、ファンド・チャネル、アナテック、CACF NL、ソー・ユー、KAS バンク。2020 年度の連結範囲対象外企業:CA セルビア、Via Vita、IWM ブラジルとマイアミ、CACF NL。連結範囲変更の影響により、第 3 四半期の費用は、前年同期比 1 億 4,300 万ユーロ増。連結範囲変更の影響により、9 ヶ月累計期間の費用は、前年同期比 1 億 9,000 万ユーロ増。

²⁶ 基礎的データ

び投資銀行部門の活動に伴う人員配置の変更により、前年同期比 3.3%増加しました。専門金融サービス部門の費用は、活動の増加に伴い、2020 年度第 3 四半期に比べ 28.2%増加し、CACF NL の影響を除くと 5.2%増となりました。リテール・バンキング部門の SRF を除く営業費用は、前年同期に比べ 9.0%増加しました。連結範囲の変更による影響²⁷を除くと、この部門の費用の増加は、LCL における増加が抑制され(前年同期比 3.0%増)、クレディ・アグリコル・イタリアでは減少(同一基準で前年同期比 0.2%減)したことから、2.0%にとどまっています。コーポレート・センターの費用は、2020 年度第 3 四半期に比べ 1,900 万ユーロ減少しました。

よって、2021 年度第 3 四半期と比較した基礎営業総利益は、6.2%増加して 22 億 9,000 万ユーロとなり、連結範囲変更の影響を除くと²⁸5.3%増となりました。事業別では、営業総利益は 2020 年度第 3 四半期に比べ、アセット・ギャザリング部門(10.6%増)、専門金融サービス部門(1.2%増)、フランスのリテール・バンキング及び国際リテール・バンキング(16.9%増)で増加した一方、大口顧客部門は素晴らしかった 2020 年度第 3 四半期から減少しました(9.5%減)が、2019 年度第 3 四半期対比では 5.8%増となりました。

2021 年 9 月 30 日現在、リスク指標はクレディ・アグリコル S.A.の資産とリスクに対する引当水準の質の高さを裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン(残高総額の 28%)と企業向け(クレディ・アグリコル S.A.の残高総額の 44%)に重点が置かれています。要注意債権比率は 3.1%と依然として低水準にあり(2021 年 6 月に比べ 0.1 ポイント低下)、要注意債権引当率²⁹は 75.4%となり、当四半期中に 1.8 ポイント上昇しました。クレディ・アグリコル S.A.の貸倒引当金は 104 億ユーロとなり、2021 年 6 月末から 1 億ユーロ増加しました。この貸倒引当金のうち、26%は正常債権に対する引当です。正常債権に対する引当を決定するために、いくつかの加重経済シナリオが用いられています。これらは 2020 年の共通発行者情報の発行以降更新され、より楽観的なシナリオ(フランスの GDP は 2021 年に 5.9%成長、2022 年に 5.3%成長)と、それほど楽観的ではないシナリオ(フランスの GDP は 2021 年に 2.7%成長、2022 年に 3.3%成長)を含んでいます。しかし、これらは 2021 年度第 3 四半期には更新されていません。

リスク関連費用は 2021 年度第 2 四半期に比べ 4%減少し、2020 年度第 3 四半期に比べ 54%減少しました。2 億 6,600 万ユーロとなり、これに対して 2021 年度第 2 四半期は 2 億 5,400 万ユーロ、2020 年度第 3 四半期は 5 億 7,700 万ユーロでした。2021 年度第 3 四半期の費用 2 億 6,600 万ユーロは、正常債権(ステージ 1 及び 2)に対する引当 2,700 万ユーロ(これに対して 2021 年度第 2 四半期は 1,700 万ユーロ、2020 年度第 3 四半期は 1 億 6,500 万ユーロ)と確認されているリスク(ステージ 3)に対する引当 2 億 3,400 万ユーロ(これに対して 2021 年度第 2 四半期は 1 億 9,900 万ユーロ、2020 年度第 3 四半期は 4 億 2,500 万ユーロ)で構成されています。2021 年度 9 ヶ月累計期間における、ローリング 4 四半期の残高に対する信用リスク関連費用³⁰は 33 ベーシス・ポイントで(2021 年度第 2 四半期比で 8 ベーシス・ポイント減)、年換算四半期ベース³¹では 24 ベーシス・ポイントでした(2021 年度第 2 四半期と比較してほぼ横這い)。

この減少は、CA-CF(22.4%減でマイナス 9,200 万ユーロ。対して 2021 年度第 2 四半期はマイナス 1 億 1,900 万ユーロ、2020 年度第 3 四半期はマイナス 1 億 2,700 万ユーロ)及び LCL(5%減でマイナス 4,100 万ユーロ。対して 2021 年度第 2 四半期はマイナス 4,300 万ユーロ、2020 年度第 3 四半期はマイナス 8,300 万ユーロ)で顕著となっています。

²⁷ 2021 年度の連結範囲対象外企業:クレバル、CA セルビア。2020 年度の連結範囲対象外企業:CA セルビア。連結範囲変更の影響により、第 3 四半期の費用は、前年同期比 6,800 万ユーロ増。連結範囲変更の影響により、9 ヶ月累計期間の費用は、前年同期比 1 億 3,300 万ユーロ増。

²⁸ 2021 年度の連結範囲対象外企業:クレバル、CA セルビア、JV アムンディ・バンク・オブ・チャイナ、ファンド・チャネル、アナテック、CACF NL、ソー・ユー、KAS バンク。2020 年度の連結範囲対象外企業:CA セルビア、Via Vita、IWM ブラジルとマイアミ、CACF NL。連結範囲変更の影響により、第 3 四半期の営業総利益は前年同期比 2,200 万ユーロ増。9 ヶ月累計期間の営業総利益は、連結範囲変更の影響により、前年同期比 8,600 万ユーロ増に。

²⁹ ステージ 3 の残高を分母とし、ステージ 1、2 及び 3 で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率

³⁰ ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用(ベーシス・ポイント)は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

³¹ 年換算の残高に対するリスク関連費用(ベーシス・ポイント)は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

ファイナンス事業のリスク関連費用の引当金は 1,300 万ユーロと、3,500 万ユーロの戻入が行われた 2021 年度第 2 四半期からは増加しましたが、2 億 2,500 万ユーロであった 2020 年度第 3 四半期からは 94%減少しました。CA イタリアでは当四半期は 7,900 万ユーロと横這いでした(前年同期に比べ 8%減)。

クレディ・アグリコル S.A.の不良債権比率は 2021 年 6 月から 0.1 ポイント低下して 3.1%となり、不良債権引当率は 2021 年 6 月から 1.8 ポイント上昇して 75.4%となり、良好な資産の質を維持しています。部門別でもこの傾向は裏付けられ、ファイナンス事業では要注意債権比率は 2.9%(2021 年 6 月に比べ 0.1 ポイント低下)となり要注意債権引当率は 71.5%と上昇(2021 年 6 月に比べ 4.5 ポイント上昇)しました。CACF では、要注意債権比率が 2021 年 6 月に比べ 0.6 ポイント低下の 5.7%となり要注意債権引当率は 2021 年 6 月に比べ 3.7 ポイント上昇して 85.3%となりました。CA イタリアの 2021 年 9 月末の要注意債権比率は 2021 年 6 月に比べ 0.1 ポイント低下の 6.3%となり、要注意債権引当率は 2021 年 6 月から 0.8 ポイント上昇して 69.3%となりました。LCL の不良債権比率は 1.5%(2021 年 6 月に比べ 0.1 ポイント低下)に減少し、不良債権引当率は 83.5%となりました(2021 年 6 月に比べ 1.8 ポイント上昇)。

持分法適用会社の基礎的寄与は、2020 年度第 3 四半期に比べ 4.6%増加して 1 億 300 万ユーロとなりました。これは、消費者金融(2020 年度第 3 四半期に比べ 9.7%増の 7,900 万ユーロ)、及び資産運用(2020 年度第 3 四半期に比べ 47.6%増の 2,500 万ユーロ)の事業体の好調な活動を反映したものです。

2021 年度第 3 四半期の**他の資産に関する純利益**はマイナス 900 万ユーロで、これに対して 2020 年度第 3 四半期はマイナス 300 万ユーロでした。

この結果、非継続事業と非支配持分控除前の**税引前基礎利益**³²は **26.6%増加**して 21 億 1,800 万ユーロとなりました。**基礎的実効税率は 23.5%**となり(前年同期と比べて 1.1 ポイント上昇)、一方基礎税金費用は 33.9%増加して 4 億 7,400 万ユーロとなりました。**非支配持分控除前の純利益は 24.5%増加**しました。

2021 年度第 3 四半期に、**非支配持分**は 12.3%増加して 2 億 2,900 万ユーロとなりました。これは、各事業の業績に沿ったものであること、及び 2020 年度第 3 四半期に保険において 1 株当たり利益に影響を与えずに劣後債務(RT1)のクーポンの認識方法を変更したことによるものです。

当四半期の**基礎純利益グループ帰属分**は、前年同期比 26.7%増の **14 億 1,400 万ユーロ**でした。

当四半期の**1 株当たり基礎的利益**は、前年同期と比べ **18.4%増加**して、**0.43 ユーロ**に達しました。

加えて、当四半期のクレディ・アグリコル S.A.は資本構成の簡素化を完了し、株主重視の報酬に対するコミットメントを継続します。

なお、2021 年 3 月 1 日、クレディ・アグリコル S.A.はスイッチ保証の 15%を解消しました。これは、純利益グループ帰属分に 3,100 万ユーロの通期影響及び CET1 レシオにマイナス 20 ベーシス・ポイントの影響を与えました。加えて、クレディ・アグリコル S.A.は 2021 年 9 月 21 日に、5 億 5,900 万ユーロで第 1 回自社株買いを完了しました。

³² 特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

2020 年度第 4 四半期に発表されたイニシアチブを受けて、クレディ・アグリコル S.A.は 2021 年 10 月 5 日に第 2 回自社株買いを開始しました。5 億ユーロのこの買戻しは、2022 年 1 月 28 日まで行われ、CET1 にマイナス 14³³ ベーシス・ポイントの影響を与えることになります。加えて、2021 年 11 月 16 日に、クレディ・アグリコル S.A.は、スイッチ保証の残りの 50%の解消に取り組みます。この最後の取引により、通期の純利益グループ帰属分は 1 億 400 万³⁴ ユーロ増加し、CET1 レシオにマイナス 60 ベーシス・ポイントの影響を与えることになります。スイッチ保証の 65%の解消に加え、2 回の自社株買いにより、1 株当たり利益は約 1%増加しています³⁵。

さらに、クレディ・アグリコル S.A.は、2019 年の配当金の残りである 0.40 ユーロ³⁶を 2021 年及び 2022 年の配当支払において払う考え³⁷を再確認しました。これは、全体として、50%の現金配当政策が MTP の期間(2018 年から 2022 年)にわたって維持されることを意味します。

クレディ・アグリコル S.A. — 表示実績と基礎的実績(2021 年度第 3 四半期と 2020 年度第 3 四半期)

€m	9M-21 stated	Specific items	9M-21 underlying	9M-20 stated	Specific items	9M-20 underlying	Δ 9M/9M stated	Δ 9M/9M underlying
Revenues	16,843	(29)	16,872	15,248	(217)	15,465	+10.5%	+9.1%
Operating expenses excl.SRF	(9,709)	(50)	(9,659)	(9,226)	(68)	(9,158)	+5.2%	+5.5%
SRF	(392)	130	(522)	(439)	-	(439)	(10.7%)	+18.9%
Gross operating income	6,742	51	6,691	5,583	(285)	5,869	+20.7%	+14.0%
Cost of risk	(929)	(25)	(904)	(2,068)	38	(2,106)	(55.1%)	(57.1%)
Equity-accounted entities	291	5	286	277	-	277	+5.2%	+3.4%
Net income on other assets	(42)	(15)	(27)	84	-	84	n.m.	n.m.
Change in value of goodwill	378	378	0	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	6,440	394	6,046	3,876	(248)	4,124	+66.1%	+46.5%
Tax	(1,245)	179	(1,424)	(692)	63	(756)	+79.8%	+88.4%
Net income from discount'd or held-for-sale ops.	2	3	(1)	(125)	(124)	(1)	n.m.	n.m.
Net income	5,197	576	4,621	3,059	(309)	3,368	+69.9%	+37.2%
Non controlling interests	(781)	(122)	(660)	(490)	4	(494)	+59.4%	+33.6%
Net income Group Share	4,416	454	3,962	2,568	(305)	2,874	+71.9%	+37.9%
Earnings per share (€)	1.38	0.15	1.23	-	(0.89)	0.89	n.m.	+37.7%
Cost/income ratio excl.SRF (%)	57.6%		57.2%	60.5%		59.2%	-2.9 pp	-2.0 pp
Net income Group Share excl. SRF	4,753	454	4,299	2,961	(305)	3,266	+60.5%	+31.6%

2021 年度 9 ヶ月累計期間の表示純利益グループ帰属分は、前年同期の 25 億 6,800 万ユーロから 71.9%増加して 44 億 1,600 万ユーロとなりました。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の特殊要因は、表示純利益グループ帰属分に 4 億 5,400 万ユーロのプラスの影響を与えました。前述の第 3 四半期の項目に加えて、2021 年度上半期の項目には、4 億 6,600 万ユーロのプラスの影響があり、DVA のプラス 100 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジのマイナス 1,100 万ユーロ及び住宅購入貯蓄プラン引当金の変動影響マイナス 600 万ユーロなどの変動の大きい経常的な会計項目がありました。また、以下の追加項目があります: 2016 年度～2020 年度に支払われた SRF への超過拠出金 1 億 3,000 万ユーロ、ウェルス・マネジメント部門内でのマイアミとブラジルの事業処分過程で発生した損失 200 万ユーロ、CACEIS による Kas バンク及び S3 の統合費用マイナス 200 万ユーロ、LCL における LCL 新世代ネットワークプロジェクト及びターボ・プロジェクトに関連する変革コストマイナス 900 万ユーロ、CACEIS の変革及び成長計画マイナス 800 万ユーロ、

³³ 2021 年 9 月末時点の CET1 及びリスク・ウェイト資産に基づいて推定、影響については 2021 年度第 4 四半期に認識予定

³⁴ 標準税率 28.41% で計算

³⁵ 実施または公表された取引を調整した 2020 年基礎 EPS から計算

³⁶ リマインダー: 2021 年における 0.80 ユーロの例外的配当支払、50%の現金配当政策に基づき 0.50 ユーロに 0.30 ユーロを加算。2019 年の配当 0.70 ユーロ実現のための最初の措置

³⁷ クレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2022 年及び 2023 年に開催される株主総会へ提出する配当支払案による

クレバルの初期連結に関する仮の負ののれん純額プラス 2 億 8,500 万ユーロ、クレバルの買収費用マイナス 800 万ユーロ、クレバルの正常債権残高に対する 1,900 万ユーロの追加引当、のれん及びその償却の非会計再評価に関するイタリアでの例外的税引当に関連する Affrancamento の利益が純利益グループ帰属分で 1 億 1,100 万ユーロ (IRB が 2,800 万ユーロ、AG が 7,800 万ユーロ及び SFS が 500 万ユーロ)。**2020 年度 9 ヶ月累計期間の特殊要因は、純利益グループ帰属分に 3 億 500 万ユーロのマイナスの影響を与えました。**上述の 2020 年度第 3 四半期の特殊要因と比較して、これらの項目は 2020 年度上半期の純利益グループ帰属分に 1 億 6,700 万ユーロのマイナス影響を与えました。これらは変動の大きい経常的な会計項目でした。具体的には、DVA がマイナス 1,900 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジがプラス 3,200 万ユーロ、並びに住宅購入貯蓄プラン引当金の変動がマイナス 4,100 万ユーロ、KAS バンク及び S3 の統合費用がマイナス 400 万ユーロ、そして COVID-19 に関連する連帯基金拠出金の影響によるマイナス 5,200 万ユーロ、事業中断保険に加入している SME 及びスモールビジネスに提供された支援によるマイナスの影響 9,800 万ユーロ、クレディ・アグリコル S.A. が 2020 年 6 月に実施した負債管理取引の現金調整によるマイナスの影響 2,800 万ユーロ及びスイッチ保険の発動によるプラスの影響 4,400 万ユーロが含まれていました。

これらの特殊要因を除いた**基礎純利益グループ帰属分は、前年同期比 37.9%増の 36 億 9,200 万ユーロ**でした。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の 1 株当たり利益は 1.23 ユーロとなり、前年同期に比べ **37.7%増加**しました。

基礎 RoTE³⁸は、基礎純利益グループ帰属分の年換算額³⁹及び線形化で年換算された IFRIC の下での費用に基づいて算出されており、年換算後のその他 Tier 1 債券のクーポンを控除して算出され(無形資産を除いたグループ帰属株主資本利益率)、**2021 年度 9 ヶ月累計期間には 13.1%となり**、2020 年度 9 ヶ月累計期間(10.0%)に比べ上昇しました。2017 年度第 1 四半期以降、クレディ・アグリコル S.A. の年換算ベース基礎 ROTE⁴⁰は、数値を公表している欧州の大手銀行 10 行の平均値を 2.6 ポイント以上上回っています。当上半期の年換算 RoNE(正味持分利益率)は、業績の向上に伴い、2020 年度と比較して増加しました。

基礎収益は 2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ **9.1%増加**しました(同一基準ベースでは 7.3%増⁴¹)。これは、アセット・ギャザリング部門で、大きなプラスとなった市場環境により当期間に非常に好調な成功報酬及び手数料収入の認識が可能となったこと(3 億 5,600 万ユーロ増)に加えて保険商品及び資産運用の構成比の変化並びに 7 ヶ月間にわたるスイッチ保証の 15%の追加解消により力強い収益成長を遂げたこと(16.2%増収)、リテール・バンキング部門で、フランス及び国外の両方における金利マージン(純額)及び手数料収入が主要因となり好調な伸長を示したこと(前年同期比 9.9%増収)、専門金融サービス部門で回復により 7.1%の増収となったこと、大口顧客部門の収益がほぼ横這い(前年同期比 1.4%減)となったこと、コーポレート・センター部門では、市場環境及び CACIF などのその他の事業の利益を反映して 2020 年度上半期に比べ 1 億 9,800 万ユーロの増収となったことによるものです。手数料収入は、9 ヶ月累計期間の収益の 43%を占めています(前年比 1 ポイント増)。

³⁸ 各事業部門の ROTE (有形株主資本利益率) 及び RONE (調整株主資本利益率) の計算の詳細については 50 ページを参照のこと。

³⁹ 年換算後の基礎純利益グループ帰属分は、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正することによって、基礎純利益グループ帰属分の年換算(第 1 四半期 × 4、上半期 × 2、9 ヶ月累計期間 × 4/3)したものに相当します。

⁴⁰ 年換算後の基礎純利益グループ帰属分は、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正することによって、基礎純利益グループ帰属分の年換算(第 1 四半期 × 4、上半期 × 2、9 ヶ月累計期間 × 4/3)したものに相当します。

⁴¹ 2021 年度の連結範囲対象外企業: クレバル、CA セルビア、JV アムンディ・バンク・オブ・チャイナ、ファンド・チャネル、アナテック、CACF NL、ソー・ユー、KAS バンク。2020 年度の連結範囲対象外企業: CA セルビア、Via Vita、IWM ブラジルとマイアミ、CACF NL。連結範囲変更の影響により、第 3 四半期の収益は、前年同期比 1 億 6,500 万ユーロ増。連結範囲変更の影響により、9 ヶ月累計期間の収益は、前年同期比 2 億 7,700 万ユーロ増。

SRF を除いた基礎営業費用は、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 5.5%増加しましたが(同一基準ベースで 3.4%増⁴²⁾、当期の収益を下回りました。この結果、3.6 ポイントの乖離効果を生み出しました(同一基準ベースで 3.9 ポイント)。当 9 ヶ月累計期間の SRF を除いたコスト比率は 57.2%となり、前年同期比 2.0 ポイント低下しました。当 9 ヶ月累計期間の SRF は、前年同期に対し 18.9%増加して 5 億 2,200 万ユーロとなりました。なお、2016 年から 2020 年の過払いに対する還付は、2020 年度第 1 四半期における特殊要因として会計処理されています。基礎営業総利益は 66 億 9,100 万ユーロとなり、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 14.0%増加しました。

最後に、**リスク関連費用**は大幅に減少しました(2020 年度 9 ヶ月累計期間の 21 億 600 万ユーロから 57.1%減、12 億 200 万ユーロ減の 9 億 400 万ユーロ)。

⁴² 2021 年度の連結範囲対象外企業:クレバル、CA セルビア、JV アムンディ・バンク・オブ・チャイナ、ファンド・チャネル、アナテック、CACF NL、ソー・ユー、KAS。2020 年度の連結範囲対象外企業:CA セルビア、Via Vita、IWM ブラジルとマイアミ、CACF NL。連結範囲変更の影響により、第 3 四半期の費用は、前年同期比 1 億 4,300 万ユーロ増。連結範囲変更の影響により、9 ヶ月累計期間の費用は、前年同期比 1 億 9,000 万ユーロ増。

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の活動及び業績の分析

アセット・ギャザリング部門

運用資産は 2021 年 9 月末で 2 兆 3,200 億ユーロになりました(2020 年 9 月末から 8.3%増)。2021 年 6 月末からの 200 億ユーロの増加の内訳は、連結範囲の変更影響マイナス 1 億ユーロ(ウェルス・マネジメントのマイアミ及びブラジル事業の撤退)、純流入 22 億ユーロ(そのうち 2 億ユーロは資産管理、11 億ユーロは生命保険、9 億ユーロはウェルス・マネジメント)並びに市場及び為替の効果 185 億ユーロです。

貯蓄/退職保険部門では、活発な活動が維持され、クレディ・アグリコル・アシュランスはフランス国内外で営業の拡大と多角化を継続しています。収益は、2020 年度第 3 四半期との比較で 23.7%増加しました。当四半期の総流入額に占めるユニット・リンク型商品の構成比は 43.2%でした。この結果、2021 年度第 3 四半期の純流入額は、ユーロ資金がわずかな流出(マイナス 3 億ユーロ)となったにもかかわらず、プラス(11 億ユーロ)となりました。ユニット・リンク型の純流入額は 14 億ユーロとなり、2020 年度と 2019 年度の第 3 四半期に対して 38.0%増、11.4%増となり、2019 年(13 億ユーロ)と 2020 年(12 億ユーロ)の四半期平均を上回る水準となりました。

資産残高(貯蓄、退職保険、死亡・高度障害保険)は 3,182 億ユーロとなり、2020 年 9 月から 4.6%増加しました。ユニット・リンク型商品の残高は当四半期に 831 億ユーロと過去最高を記録し、残高に占めるユニット・リンク型商品の構成比は 26.1%となり、2020 年 9 月と比較して 3.0 ポイント増加しました。

損害保険事業では、2021 年度第 3 四半期の事業は好調で、保険料収入は 2020 年度第 3 四半期から 5.6%⁴³増加しました。クレディ・アグリコル・アシュランスのポートフォリオに含まれる損害保険契約の件数は、2021 年 9 月末で 1,500 万件以上に達し、前年 9 月末から 4.6%増加しました。2021 年度 9 ヶ月累計期間では 51 万 1,000 件の増加となりました。損害保険事業の成長の原動力となったのは伝統的な業務(住宅、法的保護、個人傷害保険、自動車)であり、フランスにおける法人向け商品(企業の損害保険及び専門家のマルチリスク)の導入も寄与しました。コンバインドレシオは、前年同期からマイナス 0.2 ポイントと小幅の悪化の 96.9%と引き続き抑制されています。

死亡・高度障害、債権者及び団体保険では、保険料収入は 3 事業部門からのプラスの寄与により、2020 年度第 3 四半期から 7.4%⁴³増加して 11 億ユーロとなりました。債権者保険は、堅固な不動産市場に支えられ、好調に推移しました。クレディ・アグリコル・アシュランスは、フランスで 2 番目に大きな債権者保険会社⁴⁴です。

また、2021 年 10 月 6 日、クレディ・アグリコル・アシュランスは、10 年物適格ティア 2 資本劣後債 10 億ユーロを発行しました。

気候変動に対するコミットメントの一環として、クレディ・アグリコル・アシュランスは 2021 年 10 月 26 日、ネット・ゼロ・アセット・オーナーズ・アライアンスに参加し、「持続可能な保険原則(PSI)」にコミットしたことを発表しました。クレディ・アグリコル・アシュランスはまた、2025 年までに自然エネルギー施設への投資を倍増させることを約束しています。

資産運用部門(アムンディ)は、当四半期において、ほぼ全ての顧客セグメントにおいて良好な市場効果と高い中長期(MLT)資金流入を記録しました。その結果、アムンディはアクティブ運用(111 億ユーロ増)が主要因となり、ジョイント・ベンチャーを除いた MLT 資金の純流入額は 150 億ユーロとなりました。リテール・バンキング部門における MLT の純流入額(ジョイント・ベンチャーを除く)は、好調な市況を踏まえた予想流出に伴うフランスのネットワークからの 7 億ユーロの流出にもかかわらず、75 億ユーロの増加となるなど、活発な活動が展開されました。機関投資家セグメントでも MLT 資金の流入が 75 億ユーロと堅調に推移しました。トレジャリー商品の両顧客セグメントにおける純流出額はマイナス 22 億ユーロとなりました。ジョイント・ベンチャーの流出額は 127 億ユーロでした。これは、主に例外的な資金の再内面化(マイナス 116 億ユーロ)並びに中国におけるチャネル・ビジネスの低マージン商品に関連した純流出(マイナス 41 億ユーロ)によるものです。これらの項目について調整した後のジョイント・ベンチャーの MLT 資金の純流入額は、ミューチュアル・ファンドが 30 億ユーロと活発な水準を維持しています。

⁴³ 会計処理方法の変更調整後の増加で、調整分を除くと、成長率は、損害保険で 4.5%、死亡・高度障害、債権者及び団体保険で 3.1%。

⁴⁴ 出典: Argus de l'assurance、2020 年度収益に基づく

運用資産は 2021 年 9 月末現在で 1 兆 8,110 億ユーロに上り、2021 年 6 月末に比べ 1.0%増加しました(前年同期比 8.9%増)。運用資産に対する市場及び為替の影響は、2021 年 6 月末と比べプラス 170 億ユーロでした。

加えて、グラスゴーCOP 26 について、アムンディは、2050 年までにネット・ゼロ・エミッション実現に注力するアセット・マネージャーから構成される、ネット・ゼロ・アセット・マネジャーズ・イニシアティブ(パリ協定順守のコミットメント)に参加しました。アムンディは、環境または社会にプラスの影響を与えるファンドへ 2025 年までに 200 億ユーロを投資することに注力します。

ウェルス・マネジメントでは、マイアミ及びブラジル事業の撤退に関連する連結範囲の変更影響を除き、当四半期の運用資産は横這いであり、2021 年初頭から 5.1%増加し、2021 年 6 月末現在で 1,310 億ユーロとなりました。

アセット・ギャザリング(AG)部門では、全ての事業の貢献による成長が原動力となり、当第 3 四半期の**基礎純利益グループ帰属分**は前年同期比 24.8%増の 5 億 7,300 万ユーロとなりました。

アセット・ギャザリング(AG)部門の、2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎純利益グループ帰属分は、前年同期比 27.2%増の 17 億 3,900 万ユーロとなりました。

同部門は、当 9 ヶ月累計におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 40%、基礎収益の 29%に寄与しました(コーポレート・センター部門を除く)。

2021 年 9 月 30 日現在で同部門に配分された自己資本は 110 億ユーロで、この内訳は、保険が 93 億ユーロ、資産運用が 12 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 4 億ユーロでした。同部門のリスク・ウェイト資産は 486 億ユーロで、この内訳は、保険が 311 億ユーロ、資産運用が 127 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 47 億ユーロでした。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の同部門の基礎 RoNE(調整株主資本利益率)は 24.4%となり、これに対して 2020 年度通期は 22.5%でした。

保険

当四半期の保険事業の基礎収益は、前年同期比 2.6%減の 5 億 9,400 万ユーロとなりました。実際には、特に軽減税率適用の有価証券処分による長期的な利益の後、非常に高い金融収益のおかげで、保険契約者配当準備金(PPE)を強化することができました。それにもかかわらず、保険収入は、2020 年度第 3 四半期に比べ、2020 年 3 月 1 日に実施されたスイッチ保証の 15%の解消による恩恵を 1,100 万ユーロ受けました。2021 年度第 3 四半期の基礎費用は、2020 年度第 3 四半期に比べて 3.9%増加しました。税金を除いた場合、事業の成長のための投資及びスタッフ人件費により、8.6%の増加となりました。この結果、2021 年度第 3 四半期の基礎営業総利益は 5.1%減の 4 億 2,000 万ユーロとなりました。当四半期の基礎コスト比率は、前年同期比 1.8 ポイント改善され、29.3%となりました。税金費用は標準税率の低下及び四半期中の軽減税率適用の有価証券処分に伴い、35.6%減少して 6,400 万ユーロとなりました。基礎純利益グループ帰属分は RT1 劣後債のクーポン利息に使用する認識方法の変更(未払費用でマイナス 1,900 万ユーロ、1 株当たり利益には影響なし)を非支配持分で考慮後で、12.7%増加しました。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益は 19 億 4,800 万ユーロとなり、前年同期に比べ 6.9%増加しました。これは、市場効果、ユニット・リンク商品残高の増加、7 ヶ月間でのスイッチ保証の追加的な 15%解消によるものです。費用は 1.0%増加し、その結果、当 9 ヶ月累計期間の基礎コスト比率は 1.8 ポイント改善され、30.2%となりました。この結果、基礎営業総利益は 9.7%増加しました。最後に、2021 年度の 9 ヶ月累計期間の税金費用は、標準税率の引き下げと引当金の戻入により、前年同期に比べ 12.5%減少しました。全体では、純利益グループ帰属分は、前年同期比 16.6%増の 10 億 3,800 万ユーロでした。

資産運用

当四半期の基礎収益は、前年同期比 27.1%増の 7 億 7,400 万ユーロとなりました。資産運用収益(純額)は 2020 年度第 3 四半期に対して 26.4%増となりました。これは、管理報酬(純額)及び手数料収入が 17.6%増となったこととに加えて、成功報酬が総額 9,000 万ユーロと非常に高い水準を維持したことによるものです。基礎営業費用は 18.7%増加して 3 億 9,000 万ユーロとなりました。この増加は、営業利益の増加及び特にアムンディ・テクノロジーの継続的な開発投資に係る変動報酬の引当に関連しています。その結果、基礎営業総利益は 36.9%増と大幅に増加し、SRF を除いた基礎コスト比率は、前年同期に比べ 3.6 ポイント低下して 50.4%となりました。特にアジアにおけるアムンディの合併会社からの利益で構成される持分法適用会社の寄与は、2020 年度第 3 四半期から 47.6%増加して、2,500 万ユーロとなりました。基礎税金費用は、30.5%増加して 1 億 100 万ユーロとなりました。最後に、基礎純利益グループ帰属分は、44.3%増の 2 億 1,100 万ユーロでした。

2021 年度 9 ヶ月累計期間には、過去数四半期にわたる株式市場の平均水準の上昇及び特にリテール・バンキング及び MLT 資産における力強い流入額の勢いにより、収益は 30.4%増加しました。これにより、当 9 ヶ月累計期間の成功報酬及び手数料収入は 3 億 5,600 万ユーロとなりました。収益はまた、主に 2020 年 7 月 1 日からのサバデルの統合による連結範囲の変更影響プラス 4,500 万ユーロの恩恵も受けました。SRF を除いた基礎営業費用は、変動報酬の増加、主にアムンディ・テクノロジーに関する開発の資本的支出の上昇に 2021 年度 9 ヶ月累計期間の連結範囲の変更影響 3,600 万ユーロが相まって、18.0%増加しました。SRF を除いた当 9 ヶ月累計期間の基礎コスト比率は、前年同期比 5.2 ポイント改善され、49.4%となりました。営業総利益は、2021 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 45.3%増加しました。持分法適用会社の当期純利益は 38.0%増加しました。2021 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期比 49.8%増加して 6 億 2,900 万ユーロとなりました。

ウェルス・マネジメント

2021 年度第 3 四半期の基礎収益は合計 2 億 300 万ユーロとなり、2020 年度第 3 四半期に比べ 5.5%増加しました。SRF を除いた基礎費用は 7.2%増加して 1 億 7,300 万ユーロとなりました。それに伴い、基礎営業総利益は前年同期比 3.5%減と微減し、SRF を除いた基礎コスト比率は 2021 年度第 3 四半期には 87.7%となりました。当四半期のリスク関連費用は 97.5%減少して 30 万ユーロとなりました。全体として、2021 年度第 3 四半期の基礎純利益グループ帰属分は、87.7%増加して 2,300 万ユーロとなり、2019 年度第 3 四半期と比較すると 31.0%増となりました。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益は、前年同期に比べ 2.0%増加しましたが、SRF を除く費用は 0.8%減と微減しました。この結果、営業総利益は 21.2%増加して 9,300 万ユーロとなりました。リスク関連費用(2021 年度第 1 四半期は 500 万ユーロ)、税金及び非支配持分を控除した後の、2021 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は 26.8%増加し、7,200 万ユーロとなりました。収益でマイナス 100 万ユーロ、費用でマイナス 200 万ユーロ、売却目的で保有しているマイアミとブラジルの企業の寄与に関する非継続事業からのプラス 500 万ユーロで、合計プラス 200 万ユーロが特殊要因に認識され、2021 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分に影響を及ぼしたことに留意してください。

大口顧客部門

ファイナンス事業の順調な業績及びパンデミック後に市況が正常化したことにより、2021 年度第 3 四半期の法人営業及び投資銀行部門(CIB)の全体としての業績は好調でした。この結果、**基礎収益**は 12 億 4,100 万ユーロ(2020 年度第 3 四半期対比 3.7%減)と高い水準を維持し、パンデミック前の水準を上回りました(2019 年度第 3 四半期に比べ 5.7%増、為替の影響を除くと 9.9%増)。**ファイナンス事業**の収益は 2021 年度第 3 四半期に大幅に増加し、前年同期比で 13.0%増となりました。2019 年度第 3 四半期のパンデミック前の水準と比べると、収益は 9.2%増加しました(為替の影響を除くと 16.6%増)。この増加は、サプライチェーン及びプライベート・エクイティ融資活動により、ストラクチャード・ファイナンス(前年同期比 9.2%増)及び商業銀行業務(前年同期比 16.4%増)が原動力となりました。クレディ・アグリコル CIB は、シンジケート・ローンにおいて首位を維持しています(EMEA 市場では第 3 位⁴⁵、フランスでは第 1 位⁴⁶)。**資本市場及び投資銀行部門**の 2021 年度第 3 四半期の収益は、パンデミック前の水準から増加し、5 億 5,200 万ユーロとなりました(2019 年度第 3 四半期に比べ 1.5%増、為替の影響を除くと 2.4%増)。しかしながら、正常化する市場環境及び急速に低下する VaR 水準による FICC 業務の鈍化(2020 年度第 3 四半期比 23.7%減)により、2020 年度第 3 四半期からは 18.7%減となりました。VaR は 2021 年 9 月末で 610 万ユーロになりました(2020 年 9 月末は 1,210 万ユーロ)。2021 年度第 3 四半期の規制上の平均 VaR は 610 万ユーロで、これに対して 2020 年度第 3 四半期は 1,450 万ユーロでした。投資銀行及び株式部門は引き続き好調に推移しました。正常化しつつある市場において、クレディ・アグリコルの法人営業及び投資銀行部門は債券発行におけるその主導的地位を維持しました(ユーロ債全体で全世界第 5 位⁴⁷、ユーロ社債全体で全世界第 8 位⁴⁸)。

資産運用サービス(CACEIS)の当四半期の活動は良好な水準でした。**カストディー資産**は力強い勢いを示し、2021 年 9 月末で 43 億 6,700 万ユーロとなり、2020 年 9 月末に比べて 9%増加しました。また、**資産管理**も増加し、2021 年 9 月末では前年同期比 11%増の 2 兆 3,030 億ユーロとなりました。この成長は、ボリューム効果と市場効果の両方によるものです。

2021 年度第 3 四半期には、主に市場環境が正常化したことにより、大口顧客部門の**収益**は 15 億 2,800 万ユーロとなり、2020 年度第 3 四半期と比較して 2.4%減少しました。SRF を除く基礎営業費用は、投資並びに法人営業及び投資銀行部門の活動を支える社員数の変更により、前年同期比 3.3%増加しました。SRF を除いた基礎コスト比率は 58.6%でした。この結果、営業総利益は 9.5%減少しました。2021 年度第 3 四半期のこの事業部門のリスク関連費用は 1,200 万ユーロの純繰入となりましたが、これに対して 2020 年度第 3 四半期は 2 億 1,700 万ユーロの繰入でした。この引当金の大幅な減少は、主に中期経済予測の改善を踏まえたファイナンス業務における正常債権に対する引当金の減少によるものです。2021 年度第 3 四半期の税引前利益は前年同期比 28.4%増と、大幅に増加して 6 億 2,100 万ユーロとなりました。当四半期の税金費用は 16.8%増でした。その結果、2021 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 33.0%増の 4 億 5,500 万ユーロでした。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の大口顧客部門の**基礎収益**は 47 億 6,900 万ユーロとなり、前年同期に比べ 1.4%減少しました。2021 年度 9 ヶ月累計期間の **SRF を除く基礎営業費用**は、事業部門及び投資の増加に伴い、前年同期に比べて 4.1%増加し、27 億 600 万ユーロとなりました。**SRF の費用**は、前年同期に比べ 26.2%増加しました。2021

⁴⁵ 出典:リフィニティブ R17

⁴⁶ 出典:リフィニティブ

⁴⁷ 出典:リフィニティブ N1

⁴⁸ 出所:リフィニティブ N8

年度 9 ヶ月累計期間の営業総利益は 17 億 3,500 万ユーロとなり、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 12.3%の減少となりました。SRF を除いた当 9 ヶ月累計期間の基礎コスト比率は、前年同期比 3.0 ポイント増加しましたが、56.7%と低水準を維持しました。リスク関連費用は、主に経済シナリオの改善により 3,800 万ユーロとなりました。これに対して、2020 年度 9 ヶ月累計期間は 7 億 1,900 万ユーロでした。基礎純利益グループ帰属分へのこの部門の貢献は 12 億 2,500 万ユーロとなり、2020 年度 9 ヶ月累計期間と比較して 24.2%増加しました。

同部門は、当 9 ヶ月累計におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 28%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 28%に寄与しました。

2021 年 9 月 30 日現在、同部門に配分された資本は合計 126 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 1,324 億ユーロでした。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の同部門の基礎 RoNE(調整株主資本利益率)は 13.8%となり、これに対して 2020 年度は 10.7%でした。

法人営業及び投資銀行部門

2021 年度第 3 四半期の法人営業及び投資銀行部門の基礎収益は、2020 年度第 3 四半期と比較して 3.7%減となりましたが、2019 年度第 3 四半期対比では 5.7%増でした(為替の影響を除くと 9.9%増)。この結果、収益はパンデミック前の水準を上回る高水準で推移しました。業務の相互補完的性質を踏まえると、パンデミック後に市場環境が正常化するにつれ、ファイナンス活動の収益は増加していることとなります。SRF を除く基礎営業費用は、前年同期に比べ 4.7%増加して 6 億 8,000 万ユーロとなりました。これは、IT プロジェクトへの投資及び事業の成長をサポートするための社員数の変更に関連したものです。SRF を除いたコスト比率は、54.8%と低水準にとどまりました。結果として、営業総利益は 5 億 6,000 万ユーロとなり、2020 年度第 3 四半期に比べ 12.2%減少しましたが、2019 年度第 3 四半期に対しては 4.2%増加しました(為替の影響を除くと 11.9%増)。2021 年度第 3 四半期のリスク関連費用は 1,400 万ユーロの純繰入となりましたが、これに対して 2020 年度第 3 四半期は 2 億 2,000 万ユーロの繰入でした(2021 年度第 2 四半期は 4,000 万ユーロの戻入)。これは主に、ファイナンス業務におけるステージ 1 及び 2 の正常債権に対する引当金の大幅な減少によるものです。最後に、2021 年度第 3 四半期の税引前利益は 30.1%増加しました。これには、2021 年度第 2 四半期における CACIB のアルジェリア子会社の連結除外に関連して他の資産に関する損益の下で認識されたマイナス影響 300 万ユーロが含まれています。税金費用は 1 億 1,900 万ユーロとなり、前年同期に比べ 13.7%増加しました。全体で、2021 年度第 3 四半期の基礎純利益グループ帰属分は 4 億 1,600 万ユーロとなり、2020 年度第 3 四半期と比較して 35.5%増加しました。

2021 年 9 月末のリスク・ウェイト資産は、2021 年 6 月末比 23 億ユーロ増加し、1,232 億ユーロとなりました。この増加は、歴史的な低水準に到達した後の市場リスクの増加(19 億ユーロ増。そのうち、15 億ユーロはストレス下の VaR の上昇に関するもの)及び為替の影響(8 億ユーロ増)が主要因です。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益は 39 億 100 万ユーロとなり、前年同期に比べ 2.2%減少しました(2019 年度 9 ヶ月累計期間比で 9.3%増加)。SRF を除く基礎費用は、前年同期比で増加した(4.5%増)一方、SRF への拠出は 27.3%増と大幅に増加し、2021 年 9 月末時点で 2 億 9,500 万ユーロとなりました。この結果、2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎営業総利益は 15 億 5,300 万ユーロに減少しました(前年同期比 13.5%減)が、パンデミック前の 2019 年度 9 ヶ月累計期間に比べると 3.7%増加しました(為替の影響を除くと 13.5%増)。2021 年 9 月末の SRF を除いた基礎コスト比率は 52.6%と低水準を維持し、中期計画の目標である 55%を下回っています。最後に、2021 年度 9 ヶ月累計期間のリスク関連費用は、前年同期の 7 億 1,600 万ユーロに対し、4,500 万ユーロの繰入となりました。この結果、当部門の純利益グループ帰属分への寄与は 26.5%増加して 11 億 2,800 万ユーロと 2006 年以降最高水準を記録しました。

クレディ・アグリコル CIB は、2025 年までに非炭素エネルギーの使用を 60%増加し、同日までに石油生産への融資を 20%減少させることを発表し、気候変動への取り組みを継続しました。

資産運用サービス

2021 年度第 3 四半期の基礎収益は、当事業部門の好調な業績により、2020 年度第 3 四半期に比べて 3.4%増加し、2 億 8,800 万ユーロとなりました。カストディー資産は前年同期比で 9%増加し、資産管理は 11%増加しました。フロー活動は高水準を維持しました。増収の主要因は、高い資産手数料収入とプラスの市場効果です。SRF 及びターボ・プロジェクト⁴⁹に関連する費用を除く基礎営業費用は、前年同期に比べほぼ横這いとなり(1%減)2 億 1,500 万ユーロとなりました。この結果、基礎営業総利益は 18.7%増と大幅に増加し、7,300 万ユーロとなりました。SRF を除いた 2021 年度第 3 四半期の基礎コスト比率は、前年同期比 3.3 ポイント低下し、74.8%となりました。基礎純利益は 11.4%増の 5,800 万ユーロとなりました。サンタンデールの非支配持分 1,900 万ユーロ控除後の、当事業部門の基礎純利益グループ帰属分への貢献は、前年同期比 11.5%増の 3,900 万ユーロとなりました。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益は、顧客事業の好調な業績により、前年同期に比べ 2.4%増加しました。SRF を除く基礎費用は、事業の成長と 2021 年度第 2 四半期に特殊要因としての修正再表示が中止となった KAS バンクの残りの統合費用の認識に伴い 2.7%増加し、一方 SRF 費用は 16.6%増と大幅に増加しました。この結果、基礎営業総利益は 2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 0.7%の減少と、ほぼ同水準となりました。2021 年 9 月末における SRF を除いた基礎コスト比率は、75.3%と同水準にとどまりました。この結果、基礎純利益は 3.0%増加しました。2021 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分に対する事業部門の全体的な貢献は 9,700 万ユーロとなり、2020 年 9 月 30 日と比較して 2.7%増加しました。

⁴⁹ CACEIS の変革と成長計画

専門金融サービス部門

専門金融サービス部門は、全事業にわたって好調な業績を記録しました。

加えて、当四半期はグループの将来的な成長に貢献する多くの取り組みが実施されました。具体的には、CA コンシューマー・ファイナンスと CAL&F がフランスにおいて共同で提供する個人及び中小企業向けの長期自動車リースサービス CA Mobility、ビジネス機器管理サービス提供を目的とした CAL&F による Olinn の買収発表、及び市場の創出を通じた CAL&F によるドイツにおけるリース事業の開始が挙げられます。Olinn の買収による、2021 年度第 4 四半期のクレディ・アグリコル S.A. の CET1 レシオへの予想される影響はマイナス 6 ベーシス・ポイントで、クレディ・アグリコル・グループではマイナス 4 ベーシス・ポイントです。

クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスの 2021 年度第 3 四半期のローン組成額は、電子部品不足の影響を受けた自動車市場が原因で、前年同期比でわずかに減少しました（連結範囲の変更影響を除くと 3.3%減⁵⁰）が、パンデミック前の水準には戻りました（2019 年度第 3 四半期対比 0.9%増）。2020 年度第 3 四半期と比較したローン組成の減少はフランス（クレディ・アグリコル・グループとの取引は 7%減）及び自動車パートナーシップ（6%減。主に FCA バンク）に集中していますが、その一部は CACF NL を除く国際企業の好調な業績により相殺されました（アゴス 13%、ワファサラフ 10%）。CA コンシューマー・ファイナンスの運用資産は 2021 年 9 月末で 910 億ユーロに達しました。2020 年 9 月末から 2%増加し、2019 年 9 月末に比べて 0.5%増加しました。この増加は、国際企業⁵¹及びクレディ・アグリコル・グループとの業務が原動力となっています（2020 年 9 月末対比でそれぞれ 14%増、4.1%増）。自動車パートナーシップに関する残高は、自動車製造が電子部品不足の影響を受けたにもかかわらず、2020 年度第 3 四半期から相対的に横這いでした（0.3%減）。

クレディ・アグリコル・リーシング・アンド・ファクタリング（CAL&F）では、リース組成が 2020 年度第 3 四半期と同水準となったものの、2021 年度 9 ヶ月累計期間は前年同期と比較して 17%増加しました。ファクタリング収益は、2020 年度第 3 四半期と比較して 27%増加しました。リース残高は 2021 年 9 月末現在で 160 億ユーロに達し（このうち 130 億ユーロがフランスで 31 億ユーロが国外）、2020 年 9 月末に比べ 4.7%、2019 年 9 月末に比べ 8.8%増加しました。

専門金融サービス部門では、活発な営業活動に伴い、2021 年度第 3 四半期の収益は大幅に増加しました。CACF NL⁵²を除く専門金融サービス部門の基礎収益は、CA コンシューマー・ファイナンス（CACF NL を除き 3%増及びソー・ユーの統合を除き 2.6%増⁵³）及び CAL&F（14.9%増）の好調な収益が原動力となり、2020 年度第 3 四半期に比べ 5.5%増加しました。CACF NL を除く基礎費用は、活動の増加に伴い 5.2%増加しました。CACF NL を除く営業総利益は 2020 年度第 3 四半期に比べ 5.8%増加し、SRF を除く基礎コスト比率は、連結の範囲を一定にした場合、50%⁵⁰と低い水準を維持しています（2020 年度第 3 四半期と比較して 0.3 ポイント低下）。リスク関連費用は、2020 年度第 3 四半期に比べ著しく減少しました（19.5%減⁵⁰）。その結果、2021 年度第 3 四半期には、当事業部門の基礎純利益グループ帰属分は 2 億ユーロに達し、2020 年度第 3 四半期に比べ 20.3%増加しました。

連結の範囲を一定にした場合の 2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益は、CAL&F の素晴らしい業績（前年同期比 14.7%増）及び CA コンシューマー・ファイナンスの増収（CACF NL を除く前年同期比 2.8%増）が原動力となり、前年同期比で 6%増⁵⁰となりました。連結の範囲を一定にした場合の SRF を除く基礎費用⁵⁰は、2020 年度上半期に最低水準に達した後の正常化により、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 10.7%増加しました。SRF を除いた基礎コスト比率⁵⁰は、前年同期比に比べ 1.04 ポイント上昇し、50.7%と低水準を維持しました。連結の範囲を一定にした場合⁵⁰のリスク関連費用は、2020 年度 9 ヶ月累計期間に COVID-19 危機の広がりにより正常債権に対する多額の引当が含まれていたことから、32.5%減少しました。持分法適用会社の基礎的寄与は、2021 年度 9 ヶ月累計期間のワファサラフと FCA バンクの好業績により、13.8%増加しました。この結果、純利益グループ帰属分は 18.5%増加して 6 億 5,800 万ユーロ⁵⁰となりました。

⁵⁰ 同一基準ベース分析:2020 年度第 3 四半期に IFRS 第 5 号に基づき分類され、2021 年度第 3 四半期に再び完全連結された CACF NL を除く

⁵¹ CACF NL 及びイタリアと中国の自動車 JV を除くその他の国際企業

⁵² CACF NL の完全連結による再統合に関する影響の詳細は、付属資料 5 に記載

⁵³ 以前は 50% であった持分法適用連結に対し、2021 年度第 3 四半期にはソー・ユーの完全連結を実施。この影響を除くと、連結の範囲を一定にした場合 2.6%の増収

同部門は、当 9 ヶ月累計におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の**基礎純利益グループ帰属分**の 13%、コーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 12%に寄与しました。

2021 年 9 月 30 日現在、専門金融サービス部門に**配分された資本**は 49 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 519 億ユーロでした。

同部門の当 9 ヶ月累計期間の**基礎 RoNE**(調整株主資本利益率)は、15.9%となりました(対して前年同期は 11.7%)。

消費者金融

2021 年度第 3 四半期、連結の範囲を一定にした場合での CA コンシューマー・ファイナンスの**基礎収益**は 5 億 1,700 万ユーロに達し、2020 年度第 3 四半期と比べて 3.0%増加⁵⁰しました。これは、フランス及び他国での活発な活動に加え、ソー・ユーの完全連結⁵³によるものです。連結の範囲を一定にした場合の CA コンシューマー・ファイナンスの**基礎費用**は、活動の変化に伴い 3.0%増加⁵⁰しました。この結果、連結の範囲を一定にした場合の**基礎営業総利益**は 2020 年度第 3 四半期に比べ 3.1%増加し、**SRF を除く基礎コスト比率**は、連結の範囲を一定にした場合、49.2%と低い水準を維持しています(2020 年度第 3 四半期と比較して横這い)。**持分法適用会社の貢献**は高水準で、当四半期には 7,900 万ユーロに達しました(2020 年度第 3 四半期に比べ 9.7%増)。連結の範囲を一定にした場合の**リスク関連費用**は、2020 年度第 3 四半期から大幅に減少(23%減⁵⁰)し、9,800 万ユーロとなりました。**残高に対する信用リスク関連費用**は、ローリング 4 四半期⁵⁴で 132 ベーシス・ポイントでした。**不良債権比率**は 5.7% となり、2021 年 6 月末比 0.6 ポイント低下し、不良債権引当率は 85.2%となり、2021 年 6 月末から 3.7 ポイント上昇しました。全体で、2021 年度第 3 四半期の**基礎純利益グループ帰属分**は、2020 年度第 3 四半期と比較して 19.5%増⁵⁰の 1 億 5,800 万ユーロとなりました。

連結の範囲を一定にした場合の**2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益**は、前年同期に比べ 2.8%増加⁵⁰しました。**SRF を除いた費用**は 3.9%増加⁵⁰しましたが、**SRF を除いた基礎コスト比率**は 49.8%と低水準を維持し、2020 年度 9 ヶ月累計期間(49.3%⁵⁰)とほぼ同水準でした。この結果、**基礎営業総利益**は前年同期に比べ 1.7%の増加⁵⁰と、ほぼ同水準となりました。リスク関連費用は、COVID-19 のパンデミックの広がりにより正常債権に対する引当が含まれていた 2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ、34.9%減少⁵⁰しました。**持分法適用会社の寄与**は好調で、15.3%増加しました。全体として、連結の範囲を一定にした場合の当部門の**純利益グループ帰属分**への寄与は 22.4%増加しました⁵⁰。

当上半期のクレディ・アグリコル S.A.の**純利益グループ帰属分**に対する CA コンシューマー・ファイナンス事業の寄与は 12%となりました。

リースとファクタリング

2021 年度第 3 四半期、CAL&F の**基礎収益**は、リースとファクタリングの両方における力強い回復により、2020 年度第 3 四半期に比べ 14.9%増と大幅増収の 1 億 5,100 万ユーロとなりました。**SRF を除いた費用**は 2020 年度第 3 四半期と比較して 13%増加しましたが、**SRF を除いた基礎コスト比率**は 52.7%と低水準を維持し、2020 年度第 3 四半期から 0.9 ポイント改善しました。当四半期の**乖離効果**は、2021 年度第 3 四半期と比較してプラス 1.9 ポイントとなりました。その結果、**営業総利益**は前年同期比 17.1%増となりました。リスク関連費用は 1,600 万ユーロと低水準を維持しました(2020 年度第 2 四半期対比では 11.8%増)。2021 年度第 3 四半期の CAL&F の**基礎純利益グループ帰属分**は 4,200 万ユーロとなりました(2020 年度第 3 四半期と比較して 23.4%増)。

⁵⁴ 過去 4 四半期のリスク関連費用の、各 4 四半期の平均期首残高に対する割合

2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益は、リース及びファクタリング活動の力強い回復により、前年同期に比べ 14.7%増加しました。SRF を除いた費用は、活動の回復により前年同期に比べ 8.4%増加しました。SRF を除いた基礎コスト比率は力強い改善を示し、2020 年度 9 ヶ月累計期間から 3.1 ポイント低下して 53.0%となりました。基礎営業総利益は、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 22.4%増加しました。リスク関連費用は、2020 年度上半期に COVID-19 のまん延を背景として正常債権に対する引当を強化していたことを反映して、大幅に減少しました (36.6%減)。最終的に、基礎純利益グループ帰属分は 1 億 500 万ユーロとなりました (前年同期比で 62.9%増)。

リテール・バンキング部門

クレディ・アグリコル S.A.リテール・バンキングの活動は、LCL では住宅ローン、企業、SME 及びスモールビジネス向け貸付が伸び、クレディ・アグリコル・イタリアでは活発な営業活動にけん引され、当四半期は非常に活発でした。

LCL におけるローン組成は、住宅ローン (59 億ユーロ、51.4%増)、企業 (82.7%増⁵⁵)、SME 及びスモールビジネス (11.2%増⁵⁵) において 2020 年度第 3 四半期に対し急増しました (45.5%増⁵⁵)。こうした中、貸出残高は 2021 年 9 月末で 1,476 億ユーロとなり、前年同期比で 4.3%増となりました。これには、不動産融資 (6.2%増)、SME 及びスモールビジネス向け貸付 (7.9%増⁵⁶) が含まれます。当四半期の住宅ローンの条件再交渉の水準は残高で 5 億ユーロとなり、2020 年度第 3 四半期とほぼ同水準で、最高時であった 2016 年度第 4 四半期の 52 億ユーロを大きく下回っています。オン・バランスシート預金は、DAV (11.5%増) が原動力となって 2020 年 9 月末から増加しており (5.7%増)、同様に、オフ・バランスシート預金も前年同期比で 5.8%増となりました (生命保険の 3.3%増を含む)。最後に、顧客獲得数は当四半期が 8 万 4,000 人、2021 年度 9 ヶ月累計期間が 26 万 1,000 人と好調であり、顧客基盤は 2021 年度初めから 3 万 4,000 人増となりました。自動車、住宅、健康、法的保険、全ての携帯電話保険または傷害保険におけるクロスセル・レートは、2020 年 9 月末から 1.0 ポイント上昇し、2021 年 9 月末には 26.5%になりました (2018 年 12 月末比では 2.8 ポイント上昇)。

CA イタリアのローン組成は引き続き活発な状況です。貸付残高は 609 億ユーロとなりました (前年同期比 32.3%増)。2021 年度第 2 四半期におけるクレジット・ヴァルテツリネーゼの連結による連結範囲の変更影響を除くと、イタリアの貸付残高は合計 466 億ユーロとなり、前年同期比で 1.4%増加しました。この増加は、住宅ローンが原動力となり (前年同期比 6.2%増)、流動性の高い市場における企業及び専門職分野のローン組成の鈍化の影響によるものです。バランスシートの資金流入は、2020 年 12 月に始まった資源最適化政策を反映し、引き続き鈍化しました (クレジット・ヴァルテツリネーゼによる連結範囲の変更影響を除き前年同期比 3.5%増)。CA イタリアの運用資産は、前年同期比で非常に高い成長を記録しました (連結範囲の変更影響を除き、前年 9 月末比 13.3%増)。自動車、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、全ての携帯電話保険及び傷害保険におけるクロスセル・レートも 18.8%に上昇しました (2020 年 9 月末から 2.6 ポイント上昇、2019 年末から 3.4 ポイント上昇及び 2018 年末から 5.1 ポイント上昇)。

最後に、イタリアを除いた国際リテール・バンキング全体では、営業活動の成長が加速しました。貸出残高の伸びは、2021 年 9 月末で 2020 年 9 月末比 7.6%増、為替の影響を除いたベースで 6.2%増の 128 億ユーロに達しました。これは、特にウクライナ (35%増)、ポーランド (11%増)、エジプト (8%増) によるものです。オン・バランスシートの預金残高は、為替の影響を除いたベースで 7.5%増となり、特にウクライナ (19%増)、ポーランド (16%増)、エジプト (10%増) で増加しました。総流入額は、前年同期比 6.4%増、為替の影響を除いたベースで 4.9%増の 164 億ユーロとなりました。その結果、2021 年 9 月 30 日現在、イタリアを除く国際リテール・バンキングでは、預金残高が貸付残高を 21 億ユーロ超過しました。

⁵⁵ 国家保証融資を除く

⁵⁶ 国家保証融資を含む

フランスのリテール・バンキング

2021 年度第 3 四半期に、LCL の基礎収益は前年同期に比べ 5.1%増加して 9 億 3,400 万ユーロとなりました。この増収の主要因は、金利マージン(純額)(5.4%増)及び全ての活動において活発であった手数料収入(4.8%増)でした。SRF を除く基礎営業費用は抑制されており、プロフィット・シェアリングの増加により、2021 年度第 3 四半期は前年同期に比べ 3.0%増加しました。その結果、SRF を除いた基礎コスト比率は 60.6%(MTP 目標は<66%)と改善し(2020 年度第 3 四半期と比較して 1.2 ポイント低下)、基礎営業総利益は、前年同期に比べ大幅に増加しました(8.5%増)。リスク関連費用は、経済見通しの改善を背景に、2020 年度第 3 四半期と比較して 50.5%減少し、4,100 万ユーロとなりました。要注意債権比率は引き続き抑制され(2021 年 6 月末の 1.6%に対し、2021 年 9 月末で 1.5%)、要注意債権引当率は引き続き高い水準となっています(2021 年 6 月末の 81.7%に対し、2021 年 9 月末で 83.5%)。最終的に、当四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期から大幅に増加して(30.6%増)2 億 3,000 万ユーロとなりました。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の LCL の基礎収益は 27 億 6,700 万ユーロとなり、前年同期に比べ 5.0%増加しました。SRF を除いた基礎費用は抑制されており、前年同期に比べ 1.1%増加しました。その結果、SRF を除いた基礎コスト比率は改善し(2020 年度 9 ヶ月累計期間と比較して 2.4 ポイント低下し 61.3%)、基礎営業総利益は急増しました(2020 年度 9 ヶ月累計期間と比較して 10.7%増)。リスク関連費用は 2020 年度 9 ヶ月累計期間と比較して 44.4%減少し、1 億 6,700 万ユーロとなりました。最後に、2021 年度 9 ヶ月累計期間の同部門による純利益グループ帰属分への寄与は 5 億 7,500 万ユーロとなり、前年同期に比べ急増しました(41.0%増)。

2021 年 9 月 30 日現在、同部門に配分された資本は 48 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 501 億ユーロでした。

2021 年度 9 ヶ月累計期間の LCL の基礎 RoNE(調整株主資本利益率)は、前年同期の 8.4%に対し、15.5%でした。

国際リテール・バンキング

国際リテール・バンキング部門の 2021 年度第 3 四半期の基礎収益は、前年同期比 21.3%増の 7 億 9,700 万ユーロとなり、イタリアでのクレバルの買収、セルビアでの IFRS 第 5 号への移行を除いて連結の範囲を一定にした場合では 5.2%増となりました。当第 3 四半期の SRF を除く基礎費用は 17.0%増加して 4 億 8,600 万ユーロとなりました。連結の範囲を一定にした場合では 0.6%の増加となりました。その結果、基礎営業総利益は 2020 年度第 3 四半期に比べ 28.8%増の 3 億 1,100 万ユーロとなりました(連結の範囲を一定にした場合では 13.1%増)。当四半期のリスク関連費用は 12.6%減少して 1 億 900 万ユーロとなりました。全体として、国際リテール・バンキングの純利益グループ帰属分は、前年同期比 69.2%増の 1 億 700 万ユーロとなりました。

9 ヶ月累計期間では、国際リテール・バンキング部門の基礎収益は 16.5%増の 22 億 9,100 万ユーロとなりました。SRF を除いた基礎営業費用は 10.1%増加して 13 億 6,300 万ユーロとなり、この結果、基礎コスト比率は 3.5 ポイント改善して 60.3%となりました。連結の範囲を一定にした場合の変化は、収益が 6.0%増、費用が 0.5%減となりました。当 9 ヶ月累計期間のリスク関連費用は 30.7%減少して 3 億 400 万ユーロとなりました。この結果、2021 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は 2 億 9,500 万ユーロとなり、2020 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分と比較して 90.1%増加しました。

イタリア

2021 年度第 3 四半期の CA イタリアの基礎収益は、2021 年 5 月からのクレジット・ヴァルテッリネーゼの連結による 1 億 4,500 万ユーロを含め、前年同期比 32.6%増の 6 億 1,200 万ユーロとなりました。連結範囲の変更影響を除いても、CA イタリアの収益は、管理貯蓄及び保険からの手数料収入（2020 年度第 3 四半期対比 19%増）にけん引され、2020 年度第 3 四半期と比較して 1.1%増加しています。SRF を除く基礎費用⁵⁷は、クレジット・ヴァルテッリネーゼに関連する 9,300 万ユーロを含めて 3 億 7,400 万ユーロ（18.1%増）となり、2020 年度第 3 四半期と比較し、抑制されています。連結範囲の変更影響を除くと、2020 年の衛生危機の費用が高水準となったことが影響し、費用は 0.2%減少しました。その結果、SRF を除いた基礎コスト比率は 61.1%となり、前年同期と比べてほぼ横這いでした。連結範囲の変更影響を除くと、SRF を除いた基礎コスト比率は 60.2%でした。全体として、基礎営業総利益は 2020 年度第 3 四半期に比べ大幅に増加しました（32.4%増、連結範囲の変更影響を除くと 3.2%増）。リスク関連費用は、2020 年の高い水準を反映して減少しました（27.2%減）。残高に対するリスク関連費用は 50 ベーシス・ポイントでした（当四半期の年換算ベース）。2021 年 9 月末現在で、要注意債権比率は 6.3%とほぼ同水準であり、要注意債権引当率は 69.3%でした。この結果、CA イタリアの純利益グループ帰属分は 7,400 万ユーロとなり、2020 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分と比較して 44%増加しました。

当四半期中、クレバルの連結は予定通り進みました。2,000 人以上の従業員がユニバーサル・バンキング・モデルとクレディ・アグリコル・グループの組織に関する研修を受け、アムンディのプロダクトの販売が開始され、消費者金融とリースに関する合意に達しました。今後の措置の予定も確認されました。具体的には、当四半期のデュー・デリジェンス完了後の第 4 四半期における PPA（取得原価配分）の最終的な見積もり、CA イタリアによる自主退職プログラム *Plan de Sauvegarde l'Employé (PSE)* の発表、2022 年度第 2 四半期に予定されているクレバルの法的合併などが含まれます。

2021 年度 9 ヶ月累計期間のクレディ・アグリコル・イタリアの基礎収益は、25.9%増加して 16 億 8,200 万ユーロとなりました（連結範囲の変更影響を除くと 7.7%増）。SRF を除いた営業費用は引き続き抑制され（18.1%増、ただし連結範囲変更影響を除くと 0.4%減）、その結果、SRF を除いた基礎コスト比率は 59.6%となり、前年同期比 3.9 ポイント改善し、連結範囲の変更影響を除いた場合は 4.8 ポイントの改善で 58.7%となりました。当 9 ヶ月累計期間に、リスク関連費用は大幅に減少しました（27.2%減）。全体として、当 9 ヶ月累計期間の当部門の純利益グループ帰属分への寄与は 2 倍増となりました。

2021 年度上半期の CA イタリアの基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 11.8%となりました。

イタリアのクレディ・アグリコル・グループ

2021 年度 9 ヶ月累計期間の当グループのイタリアにおける純利益グループ帰属分は、営業利益の増加及び 2021 年 5 月に行われたクレバルの連結範囲への追加により、2020 年度 9 ヶ月累計期間に比べ 43%増加し、6 億 300 万ユーロとなりました。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）

2021 年 7 月、クレディ・アグリコル S.A.はセルビアの子会社であるクレディ・アグリコル・セルビア A.D.の売却を発表しました。この売却は 2022 年度第 1 四半期に完了する予定です。この結果、当 9 ヶ月累計期間の同社の業績は、第 3 四半期中に IFRS 第 5 号に基づいて再表示されました。これは、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の全ての事業に影響を及ぼしました⁵⁸。売却による純利益（純利益グループ帰属分マイナス 400 万ユーロ）のみが特殊要因として再表示されています。連結の範囲を一定にした場合⁵⁸の企業の収益は大幅に伸び、各国における 2020 年の主要金利低下を吸収しました。連結の範囲を一定にした場合のイタリアを除く国際リテール・バンキングの 2021 年度第 3 四半期の基礎収益は、前年同期に比べ 15.4%増加しました（2 億 1,100 万ユーロ）。当四半期の

⁵⁷ 特殊要因：クレバルの連結費用の影響で営業費用がマイナス 900 万ユーロ、その他資産の純利益がプラス 100 万ユーロ（純利益グループ帰属分マイナス 400 万ユーロ）

⁵⁸ CA セルビア A.D.に対する IFRS 第 5 号の再分類の影響の詳細については、付属資料 6 を参照

SRF を除く基礎費用は 2020 年度第 3 四半期に比べ 2.2%増加しましたが、連結の範囲を一定にした場合の、イタリアを除く IRB の SRF を除く基礎コスト比率は 60.5%となり、2020 年度第 3 四半期と比較して 7.8 ポイント改善しました。この結果、連結の範囲を一定にした場合の基礎営業総利益は、前年同期比 44.0%増加しました。リスク関連費用は減少して 3,100 万ユーロとなりました(2020 年度第 3 四半期対比 18.9%減)。2021 年 9 月末現在で、不良債権比率は 7.1%と低い水準にあり、不良債権引当率は 100%でした。全体として、連結の範囲を一定にした場合の基礎純利益グループ帰属分は、前年同期比 3.1 倍の 2,500 万ユーロとなりました。

国別:

- CA ポーランド⁵⁹: 収益は、新規及び拡大した手数料収入が原動力となり、大幅に増加しました(21%増)。不良債権引当率は 111%に達しました。
- CA エジプト⁵⁹: 収益は前年同期比で 3%増加し、営業費用はインフレに沿って 4%増と引き続き抑制されています。リスク関連費用は大幅に減少し(30%減)、不良債権比率は 4.4%となりました。不良債権引当率は 115%と引き続き高い水準を維持しました。
- CA ウクライナ⁵⁹: 好調な活動水準により、収益は大幅に増加しました(前年同期比 28%増)。コスト比率は 50%を下回り、2020 年度第 3 四半期に比べ 24%減となり、一方不良債権比率は 1.2%と低水準を維持しています。
- クレディ・デュ・モロッコ⁵⁹: 活動及び収益は横這いで、リスク関連費用及び要注意債権比率は減少しました。

イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の 2021 年度 9 ヶ月累計期間の基礎収益は、同一基準ベースで 2.2%増の 6 億 900 万ユーロとなりました。これは、売上のモメンタムに加え、2020 年においてエジプト、ポーランド、ウクライナ及びモロッコにおける主要金利の低下が徐々に吸収されたことによるものです。SRF を除いた基礎営業費用は同一基準ベースで 0.6%減少しました。これにより、SRF を除いた同一基準ベースでの基礎コスト比率は、2020 年度 9 ヶ月累計期間比で 1.7 ポイント低下し、62.4%となりました。リスク関連費用は 37.5%減となりました。全体として、当部門の基礎純利益グループ帰属分への寄与は 63.7%増の 7,200 万ユーロへと大幅に増加しました。

2021 年度 9 ヶ月累計期間のその他 IRB の基礎 RoNE(調整株主資本利益率)は、前年同期の 12.3%に対し、13.3%でした。

国際リテール・バンキング部門は、当 9 ヶ月累計期間におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 7%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 14%に寄与しました。

リテール・バンキング部門全体では、当 9 ヶ月累計期間におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 20%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 30%に寄与しました。

2021 年 9 月 30 日現在、この部門に配分された資本は 95 億ユーロで、内訳はフランスのリテール・バンキングが 48 億ユーロ、国際リテール・バンキングが 48 億ユーロでした。当部門のリスク・ウェイト資産は 1,003 億ユーロで、内訳はフランスのリテール・バンキングが 501 億ユーロ、国際リテール・バンキングが 501 億ユーロでした。

⁵⁹ 外国為替の影響を除く。

コーポレート・センター

2021 年度第 3 四半期のコーポレート・センター部門の基礎純利益グループ帰属分はマイナス 1 億 5,100 万ユーロとなり、2020 年度第 3 四半期から 4,500 万ユーロ悪化しました。コーポレート・センターのマイナス寄与に関する分析では、「構造的」寄与(マイナス 1 億 7,900 万ユーロ)と他の項目(プラス 2,800 万ユーロ)に注目しました。

「構造的」部分の寄与は、当四半期の税収減により 2020 年度第 3 四半期と比較して 7,900 万ユーロ減少しました。「構造的」寄与には、以下の 3 つの事業が含まれます。

- クレディ・アグリコル S.A. 本社が保有するコーポレート・センターの事業と機能。2021 年度第 3 四半期の寄与は、実効法人税率からの悪影響に伴い、2020 年度第 3 四半期(マイナス 7,600 万ユーロ)から悪化してマイナス 1 億 9,400 万ユーロとなりました。
- CACIF(プライベートエクイティ)や CA イモビリエなど、中核事業の一部ではない部門、及び 2021 年度第 1 四半期以降、増資後にクレディ・アグリコル S.A. が 50% 所有し持分法を適用しているビー・フォー・バンク。これらの 2021 年度第 3 四半期の寄与はプラス 800 万ユーロとなり、2020 年度第 3 四半期に比べほぼ横這いでした。一部 CACIF ファンドの再評価によるプラスの影響は、ビー・フォー・バンクのマイナスの寄与によって相殺されました。
- 当グループのサポート機能当四半期にはこの機能の寄与は 700 万ユーロで、2020 年度第 3 四半期との比較では、2021 年に導入された CAGIP の収益及び費用の認識方法の変更により、300 万ユーロ悪化しました。

「その他の項目」の寄与は、プレディカ及びアムンディによるグループの証券引受の消去に関するベース効果により、2020 年度第 3 四半期と比較して増加しました(プラス 3,400 万ユーロ)。

2021 年度の 9 ヶ月累計期間のコーポレート・センター部門による基礎純利益グループ帰属分への寄与はマイナス 4 億 3,600 万ユーロとなり、前年同期に比べ 4,500 万ユーロ改善しました。2021 年度 9 ヶ月累計期間の構造的部分の寄与はマイナス 5 億 8,500 万ユーロであり、前年同期と比較して 3,700 万ユーロ減となりました。また、この事業部門のその他の項目の寄与はプラス 1 億 4,900 万ユーロで、前年同期比 8,200 万ユーロ増となりました。

2021 年 9 月 30 日現在、リスク・ウェイト資産は 254 億ユーロでした。

* *
*

財務の健全性

クレディ・アグリコル・グループ

2021 年 9 月 30 日現在、クレディ・アグリコル・グループの段階適用の普通株式ティア 1(CET1)レシオは、2021 年 6 月末比 0.1 ポイント上昇して 17.4%となりました。この結果、クレディ・アグリコル・グループは、CET1 レシオの水準と 8.9%という SREP(監督上の検証・評価プロセス)要件の間で 8.5 ポイントという大きなバッファを達成しました。全面適用ベースの CET1 レシオは 17.1%となりました(2021 年 6 月 30 日に比べ 0.1 ポイント上昇)。

- **留保利益**: 表示純利益は 38 ベーシス・ポイント増、AT1 クーポン利息の分配及び支払は 7 ベーシス・ポイント減。
- **部門の成長**(「リスク・ウェイト資産の変動」): 7 ベーシス・ポイント減、影響は法人営業及び投資銀行部門、保険部門、地域銀行部門に集中。
- **規制の手法及び影響**: 不良債権(NPE)のヘッジに対する ECB 要件の適用及び IFRS 第 9 号の段階適用の影響に関連し、9 ベーシス・ポイント減。
- **M&A、OCI 及びその他**: 3 ベーシス・ポイント減。当四半期における OCI 準備金が CET1 レシオに与えた影響は中立的でした。OCI 準備金の残高は 2021 年 9 月 30 日現在で 16 ベーシス・ポイントとなりました(2021 年 6 月に対してほぼ横這い)。

バーゼル IV の規制要件に関しては、バーゼル III に関連する規制枠組みの修正に関して欧州委員会が 2021 年 10 月 27 日に公表した提案に基づき、クレディ・アグリコル・グループは、資本フロアがフランスにおける最大レベルの連結に適用されると考えています。クレディ・アグリコル・グループの段階適用の推定 CET1 レシオは、将来の目標を損なうことなく、2030 年までに現在の MTP 目標を上回る水準(16%超)を維持する必要があります。

段階適用のレバレッジ比率は 6.0%となり、2021 年 6 月末と比較して 0.1 ポイント上昇し(ECB エクスポート除外前は 5.4%)、規制要件である 3.11%⁶⁰を大きく上回っています。2021 年 9 月 30 日現在の ECB エクスポート除外前の日次の段階適用レバレッジ比率⁶¹は 5.3%でした。

クレディ・アグリコル・グループのリスク・ウェイト資産は、2021 年 6 月 30 日に比べ、29 億ユーロ増加しました。

- **大口顧客**: 25 億ユーロ増(そのうち、8 億ユーロは為替の影響)で、その増加は法人営業及び投資銀行部門に集中、主に市場リスク関連(19 億ユーロ増)
- **保険**: 保険の持分法による評価額は 9 億ユーロ増(プラスの結果 3 億 7,000 万ユーロ及び含み損益の減少 1 億 100 万ユーロ)
- **アセット・ギャザリング部門**(保険事業を除く): 事業開発関連で 4 億ユーロ増
- **コーポレート・センター**: 主に証券ポートフォリオの規模縮小に関連して 15 億ユーロ減
- **地域銀行**: 2021 年 6 月末比で 12 億ユーロ増

⁶⁰ CRR 2 の下では、銀行は、例外的なマクロ経済状況によって正当化される場合、特定の中央銀行のエクスポージャーをレバレッジ比率のエクスポージャー総額から除外することができます。この例外措置が適用された場合、金融機関は 3%超という調整後のレバレッジ比率要件を満たさなければなりません。2021 年 6 月 18 日、欧州中央銀行は、2019 年 12 月 31 日から例外的環境が存在しているため、その監督下にある信用機関はこの例外措置を適用することができる旨を発表しました。この措置は 2022 年 3 月 31 日まで適用することができます。クレディ・アグリコル・グループはこの規定を適用し、そのため、この期間中 3.11%のレバレッジ比率要件を順守しなければなりません。

⁶¹ 日次レバレッジ比率は、当四半期の証券金融取引(SFT)エクスポージャーの日次平均を考慮して算出しています。

TLAC

金融安定理事会 (FSB) は、グローバルなシステム上重要な銀行 (G-SIBs) のバйлインと資本増強の能力の充分性評価を目的としたレシオの計算を定めています。この総損失吸収能力 (TLAC) レシオは、破綻処理前及びその最中に G-SIBs がバйлインと資本増強の充分な能力を備えているかどうかを評価する手段を、破綻処理当局に提供します。これは、グローバルなシステム上重要な銀行 (したがってクレディ・アグリコル・グループ) に適用されます。

損失を吸収する要素を構成するのは、エクイティ、劣後債、及び破綻処理当局がバйлインを適用することができる債券です。

TLAC レシオの要件は、CRR2 を介して EU 法に置き換えられ、2019 年 6 月 27 日より適用可能となりました。クレディ・アグリコル・グループは同日以降、常に以下の要件に従わなければなりません。

- リスク・ウェイト資産 (RWA) の 16% を超える TLAC レシオと、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファ要件 (クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5% の資本保全バッファ、1% の G-SIB バッファ、及びカウンターシクリカル・バッファ)。総合資本バッファ要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、19.5% 超の TLAC レシオ (及びカウンターシクリカル・バッファ) に従う必要があります。
- レバレッジ・レシオ・エクスポージャー (LRE) の 6% 超となる TLAC レシオ。

2022 年 1 月 1 日以降は、最低 TLAC 要件が、リスク・ウェイト資産の 18% プラス当該日時点の総合バッファ要件、及び 6.75% のレバレッジ・レシオ・エクスポージャーに引き上げられます。

2021 年 9 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの TLAC レシオは、リスク・ウェイト資産の 26% 及びレバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 8.5% でした (適格優先シニア債を除く)⁶²。リスク・ウェイト資産の比率として表される TLAC レシオは、リスク・ウェイト資産の緩やかな増加により当四半期に 40 ベーシス・ポイント増加しました。レバレッジ・エクスポージャーの比率 (LRE) として表される TLAC レシオは、2021 年 6 月に比べ 10 ベーシス・ポイント上昇しました。中央銀行エクスポージャーの中立化を考慮しない場合、レバレッジ・レシオ・エクスポージャーで示された TLAC レシオは 7.6% に達していました (2021 年 6 月末とほぼ同水準)。これは RWA の 19.5% (CRR2/CRD5 に従い、2021 年 9 月 30 日現在でカウンターシクリカル・バッファ 0.03% を加えなければなりません) 及びレバレッジ・エクスポージャーの 6% のそれぞれを超過していました。

TLAC レシオの達成は、2021 年のホールセール市場での 70 億ユーロ規模の TLAC 債券発行プログラムによって支えられています。2021 年 9 月 30 日時点で 62 億ユーロ相当が市場で発行されました。TLAC レシオの計算で考慮されたクレディ・アグリコル・グループの非優先シニア債の金額は、257 億ユーロでした。

MREL

MREL (自己資本及び適格債務にかかわる最低要件) レシオは、欧州の「銀行再建・破綻処理指令」(BRRD) に定められています。この指令は、銀行危機に事前に対処し、金融の安定性を保護し、損失に対する納税者のリスクを軽減するために破綻処理当局に共通の手段と権限を与えることを目的として、EU 全域で銀行の破綻処理枠組みを確立するものです。「BRRD2」として知られている 2019 年 5 月 20 日付の指令 (EU) 2019/879 は BRRD を修正し、2020 年 12 月 21 日付オールドナンス 2020-1636 によってフランス法に置き換えられました。

MREL レシオは、破綻処理の際に損失を吸収するために要求される自己資本と適格債務バッファに相当します。要求される最低水準は、破綻処理当局の決定によって定められ、各金融機関に通知され、その後は定期的に改訂されます。

2020 年に、クレディ・アグリコル・グループは、連結 MREL 要件の改訂及び新たな劣後 MREL 要件 (シニア債は除外される) について通知を受けました。当グループはこの 2 つの要件を、通知時点ですでに満たしていました。この 2

⁶² クレディ・アグリコル・グループは、年次の破綻処理可能性評価の一環として、自己資本規制規則第 72b 条 3 項が認めている、2021 年の TLAC 規制の遵守に優先シニア債を使用する可能性を放棄することを選択しました。

つの要件は BRRD の下で水準調整され、欧州の規制枠組みの変更(すなわち BRRD2)を含む次の通知まで適用されます⁶³。

BRRD の下で MREL レシオは、金融機関の負債総額と自己資本の(一定の慎重な調整後)比率(TLOF⁶⁴)として、またはリスク・ウェイト資産(RWA)として表示される自己資本と適格債務の金額として計算されます。規制上の自己資本のほか、劣後債、非優先シニア債、及び特定の優先シニア債(満期まで 1 年以上のもの)は、MREL レシオの分子として適格です。

クレディ・アグリコル・グループの目標は、2022 年末までに RWA の 24~25%の劣後 MREL(適格優先シニア債を除く)を達成し、劣後 MREL を TLOF の 8%以上に維持することです。この水準にあれば、優先シニア債へのペイルイン適用前に(破綻処理当局の決定を条件に)単一破綻処理基金に対してリコースでき、優先シニア債の投資家を保護する新たなレイヤーを創出します。

2021 年 9 月 30 日現在、クレディ・アグリコル・グループの推定 MREL レシオ⁶⁵は TLOF の約 10%となり、適格優先シニア債を除いた場合、このレシオは 8.3%となります。リスク・ウェイト資産の比率で表示されるクレディ・アグリコル・グループの推定 MREL レシオは、2021 年 9 月末時点でおおよそ 31.8%でした。これは、適格優先シニア債を除くと 26%でした。劣後 MREL に関する MTP 目標は 2020 年 9 月以降達成されています。

BRRD 2 の下では、破綻処理機関の裁量により、クレディ・アグリコル・グループの劣後レベルで MREL 要件を調整する下方調整の可能性があることから、期待される最も高い劣後要件は TLAC となります。現在の TLAC レシオは 2021 年 9 月 30 日現在の要件を 6.5 ポイント上回っており、2022 年 1 月 1 日時点での予想要件 21.5%(プラス・カウンターシクリカル・バッファ)を 4.5 ポイント⁶⁶上回っています。

最大分配可能額(MDA)トリガー

バーゼル規則を EU 法に置き換えることで(CRD)、配当、AT1 債券、変動報酬に適用される分配の抑制メカニズムが導入されました。最大分配可能額(MDA。銀行が分配に割り当てることができる最大額)の原則は、分配が総合バッファ要件を順守していないとなった場合に分配に制限を設けることを狙いとしています。

MDAトリガーまでの距離は、CET1 資本、ティア 1 資本、及び資本総額についての SREP 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2021 年 9 月 30 日時点で MDAトリガーを 764 ベーシス・ポイント(CET1 資本の 450 億ユーロ)上回るバッファとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.は、2021 年 9 月 30 日時点で MDAトリガーを 450 ベーシス・ポイント(CET1 資本の 160 億ユーロ)上回るバッファとなりました。

⁶³ 当社グループは、事業を展開する欧州各国における BRRD2 の移行が遅れているため、BRRD2 の下での通知を待っています。

⁶⁴ TLOF – デリバティブを相殺した、慎重な調整後のバランスシート上の負債総額及び自己資本

⁶⁵ 現行の要件に適用される BRRD に従って行われる計算。グループの全事業体が外部に発行した MREL 適格負債を含みます。

⁶⁶ 2021 年 9 月 30 日現在で適用されるカウンターシクリカル・バッファに基づく

クレディ・アグリコル S.A.

2021 年 9 月末現在、クレディ・アグリコル S.A.のソルベンシー水準は高く、**段階適用の普通株式ティア 1(CET1)レシオ**は 2021 年 6 月末比 0.1 ポイント上昇して **12.7%**となりました。この結果、クレディ・アグリコル S.A.は、CET1 レシオの水準と 7.9%という SREP 要件の間で 4.8 ポイントという大きなバッファーを達成しました。全面適用ベースの CET1 レシオは 12.5%でした。

- 留保利益:表示純利益は 39 ベーシス・ポイント増、AT1 クーポン利息の分配及び支払は 21 ベーシス・ポイント減。50%の現金配当政策(2021 年度 9 ヶ月累計期間は 1 株当たり 0.61 ユーロ)に基づく当四半期の配当準備金は 1 株当たり 0.22 ユーロです。
- 部門の成長(「リスク・ウェイト資産の変動」):5 ベーシス・ポイント減、影響は法人営業及び投資銀行部門、保険部門に集中。
- M&A、OCI、その他:マイナス 7 ベーシス・ポイント。CA バンク・ルーマニアの売却によるプラス影響(プラス 1 ベーシス・ポイント)は、CA イタリアの構造簡素化を目的としたフリウラドリアの少数株主持分の買戻しの影響(マイナス 4 ベーシス・ポイント)と相殺されました。OCI 準備金による CET1 レシオに与えた影響は、マイナス 1 ベーシス・ポイントでした。OCI 準備金の残高は 2021 年 9 月 30 日現在で 33 ベーシス・ポイントとなりました(これに対して 2021 年 6 月 30 日現在は 34 ベーシス・ポイント)。

2021 年度第 4 四半期に予定されている 2 件の資本取引について見積ると、クレディ・アグリコル S.A.の CET1 レシオは 12.0%に達します。実際、2021 年 11 月 16 日のスイッチ保証の残り 50%の解消及び 10 月 5 日に着手し 2022 年 1 月 28 日まで続く 5 億ユーロの自社株買いの第 2 回トランシェは、クレディ・アグリコル S.A.の CET1 レシオにマイナス 70~75 ベーシス・ポイントの影響を与えると推定されます(9 月末のリスク・ウェイト資産水準に基づく)。

2021 年 9 月末の段階適用の**レバレッジ比率**は規制要件の 3.18%⁶⁷に対して 4.6%となりました(ECB エクスポート除外前は 3.9%で、2021 年 6 月末とほぼ同水準)。**日次の段階適用レバレッジ比率**⁶⁸は、ECB エクスポート除外前で 3.9%でした。

クレディ・アグリコル・グループの**リスク・ウェイト資産**は、2021 年 6 月 30 日に比べ、17 億ユーロ増加しました。

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

当グループの流動性ポジションについてわかりやすく、適切で、監査可能な情報を提供するため、バンキング部門のキャッシュ・バランスシートの安定した余剰金を四半期毎に計算します。

バンキング部門のキャッシュ・バランスシートは、当グループの IFRS 財務諸表から作成されます。これは、当グループの IFRS 財務諸表とキャッシュ・バランスシートの各セクションの間のマッピング・テーブルの定義に基づいており、その定義は市場で一般に受け入れられています。これは、保険事業が独自の制約に従って管理されているため、バンキング部門の範囲に関係します。

キャッシュ・バランスシートの各セクションでの IFRS 財務諸表の分類に加えて、相殺計算が行われます。これは、流動性リスクの点で対称的な影響を及ぼす特定の資産と負債に関係します。繰延税金、公正価額の影響、一般減損、空売り取引、及び他の資産と負債については、2021 年 9 月末時点で総額 670 億ユーロの相殺が行われました。同様に、1,220 億ユーロのレポ／リバース・レポについては、これらの残高は互いに相殺される証券貸借業務を実施する証券デスクの活動を反映するため、これまでに除外されていました。キャッシュ・バランスシートを確立するために算出された、2021 年 9 月末時点で 1,440 億ユーロに上る相殺は、デリバティブ、マージンコール、調整／清算／連

⁶⁷ CRR 2 の下では、銀行は、例外的なマクロ経済状況によって正当化される場合、特定の中央銀行のエクスポージャーをレバレッジ比率のエクスポージャー総額から除外することができます。この例外措置が適用された場合、金融機関は 3%超という調整後のレバレッジ比率要件を満たさなければなりません。2021 年 6 月 18 日、欧州中央銀行は、2019 年 12 月 31 日から例外的環境が存在しているため、その監督下にある信用機関はこの例外措置を適用することができる旨を発表しました。この措置は 2022 年 3 月 31 日まで適用することができます。クレディ・アグリコル S.A.はこの規定を適用し、そのため、この期間中 3.18%のレバレッジ比率要件を順守しなければなりません。

⁶⁸ クレディ・アグリコル S.A.の日次レバレッジ比率は、当四半期の証券金融取引(SFT)エクスポージャーの日次平均を考慮して算出しています。

絡勘定のほか、法人営業及び投資銀行部門(CIB)が保有する非流動証券に関係し、「顧客関連取引資産」に含まれています。

キャッシュ・バランスシートを作成するために預金供託公庫に集約された預金は相殺されない点にご注意ください。集約された預金額(2021 年 9 月末時点で 710 億ユーロ)は、「顧客関連取引資産」の科目の資産と「顧客関連資金」の科目の負債に記載されます。

最終段階では、他の修正再表示項目は、経済的観点から別の科目に関係する場合は、会計基準が 1 つのセクションに割り当てている残高に再度割り当てられます。そのような形で、バンキング・ネットワークを通じて発行されたシニア債と欧州投資銀行、預金供託公庫、及び顧客ローンの裏付けのある同タイプのリファイナンス取引による資金調達については、会計基準が「中長期市場資金」と分類する場合は、「顧客関連資金」として再分類されます。

中央銀行からの流動性調達取引については、T-LTRO(長期資金供給オペ)に関連する残高は、「長期市場資金」に含まれることにご注意ください。実際に、T-LTRO3 の取引は、流動性リスクの点で担保付き債券と同一の長期保証資金供給に類似しています。

中長期レポも「長期市場資金」に含まれます。

最後に、CIB の相手方当事者で、我々と商業的関係を結んでいる銀行は、キャッシュ・バランスシートの作成では顧客とみなされます。

2021 年 9 月 30 日現在の当グループのバンキング部門のキャッシュ・バランスシートは 1 兆 6,160 億ユーロで、**安定資産に対する安定資金の超過額は 2,930 億ユーロ**でした(2021 年 6 月末時点と比べて 10 億ユーロ増、2020 年 9 月末時点と比べて 440 億ユーロ増)。

当グループの T-LTRO3 の残高総額は 2021 年 9 月 30 日現在で 1,620 億ユーロ⁶⁹となりました。なお、こうしたオペにおける流動性調達金利に適用される金利については、借入期間にわたって計上されています。特別利率は、関連する特別利率期間にわたって計上されています。第 2 期(2021 年 6 月から 2022 年 6 月まで)のこうしたオペにおける流動性調達金利に適用される特別金利は、フランスとイタリアの企業については 2021 年度第 3 四半期に計上されています。

当グループは再び当四半期に営業活動のモメンタムを維持し、預金と貸付金がバランス良く増加しました。

「安定資金ポジション」として知られるこの 2,930 億ユーロの超過額により、当グループは、長期資産と安定的な負債(顧客、有形資産と無形資産、長期資金、自己資本)によって生じる LCR 不足を賄うことができます。内部管理目的では、将来の返済戦略とは無関係に、中期計画の目標である 1,000 億ユーロ以上を確保するため、T-LTRO3 残高の増加による安定資金の一時的な余剰は除外しています。

クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の安定調達比率(NSFR)は 100%を超え、2021 年 6 月 28 日以降適用される規制要件に適合しています。

また、流動性が超過していることから、2021 年 9 月 30 日現在、当グループは短期貸付のポジション(中央銀預け金が短期債務純額を上回っていること)を維持しています。

中長期市場資金は 2021 年 9 月 30 日現在で 3,470 億ユーロになり、2021 年 6 月末とほぼ同水準、2020 年 9 月末からは 340 億ユーロ増加しました。

これには、2,220 億ユーロの担保付きシニア債、760 億ユーロの優先シニア債、280 億ユーロの非優先シニア債、210 億ユーロのティア 2 債券が含まれます。

2021 年 9 月 30 日現在の当グループの流動性準備金は、ヘアカット後の時価で 4,690 億ユーロとなり、2021 年 6 月末現在からは 60 億ユーロ増加し、2020 年 9 月末現在からは 650 億ユーロ増加しました。流動性準備金は短期債務純額の 4 倍以上に達しました(中央銀行との置き換えを除く)。

⁶⁹ FCA バンクを除く

高水準の中央銀行預け金は、著しい流動性超過を置き換えた結果でした。2021 年 9 月 30 日現在の預け金残高は 2,430 億ユーロ(現金及び準備預金を除く)で、2021 年 6 月末比 170 億ユーロ増、2020 年 9 月末比 650 億ユーロ増となりました。

クレディ・アグリコル・グループは、即時利用可能な準備金(ECB の資金供給に依拠した後)を維持する取り組みを継続しています。ヘアカット後の中央銀行適格資産は 950 億ユーロとなり、2021 年 6 月末から 60 億ユーロ減少しましたが、2020 年 9 月末からは 110 億ユーロ増加しました。

信用機関は、2018 年 1 月 1 日に 100%に設定されたこの LCR レシオの基準値を条件付けられます。

クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の 12 ヶ月間の平均 LCR レシオは、2021 年 9 月 30 日時点でそれぞれ 170.3%と 156.3%でした。これは、およそ 110%という中期計画目標を上回っています。

COVID-19 による衛生危機の状況下でのクレディ・アグリコル・グループ及びクレディ・アグリコル S.A.の LCR レシオの水準の上昇は、中央銀行から T-LTRO 3 の引出しを使用したことに沿ったものでした。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も中長期資金供給について慎重な方針に従います。

当グループの主要発行体は 2021 年 9 月末現在、中・長期債によって市場で 232 億ユーロ相当額⁷⁰を調達し、このうちの 33%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。最近の注目すべき出来事：

- ・ クレディ・アグリコル・ネクストバンク(スイス)は 9 月、10 年物 1 億 5,000 万スイスフランのカバードボンド(グリーン形態)の初の発行を完了しました。
- ・ クレディ・アグリコル・アシュアランスはグループ内劣後債の借換えのために、9 月に 10 年物ティア 2 満期一括償還債券 10 億ユーロの発行を完了しました(10 月に決済)。

さらに、国内機関と国際機関から 24 億ユーロ規模の借入も行われ、2021 年に当グループのリテール・バンキング・ネットワーク(地域銀行、LCL、CA イタリア)と他の外部リテール・ネットワークで調達されました。

10 月末、クレディ・アグリコル S.A.は 2021 年の 90 億ユーロの市場からの中長期資金調達プログラム(非優先シニア債またはティア 2 債券 70 億ユーロを含みます)の 89%を完了しました。

当行は 80 億ユーロ相当額⁷¹を調達し、このうち 42 億ユーロ相当額が非優先シニア債、21 億ユーロ相当額がティア 2 債券、7 億ユーロ相当額が優先シニア債、10 億ユーロ相当額が担保付シニア債でした。資金調達の形態と通貨(EUR、USD、AUD、GBP、JPY、CNY、CHF、NOK)は様々で、多様化されています。

さらに、クレディ・アグリコル S.A.は、9 月に 10 億ユーロ、償還期間 8NC7 年、スプレッドがミッドスワップ+68 ベーシス・ポイントである非優先シニア債(ソーシャル形態)の発行を完了しました。

最後に 10 月 25 日、クレディ・アグリコル S.A.と LCL は、5 つの債券 FR0010161026、US225313AA37-USF22797FJ25、FR0000140071、FR0000584997、FR0000165912 に関して償還またはコールオプションを含める可能性があるとして発表しました。2022 年 1 月 1 日現在、これらの債券は CRR の適用除外規定の恩恵を受けていません。これらの潜在的な償還による支払能力への影響は重要ではありません。

⁷⁰ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁷¹ 買戻し及び部分返済控除前の総額

付属資料 1 — 特殊要因(クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.)

クレディ・アグリコル・グループ — 特殊要因

(2021 年度第 3 四半期と 2020 年度第 3 四半期、2021 年度 9 ヶ月累計期間と 2020 年度 9 ヶ月累計期間)

€m	Q3-21		Q3-20		9M-21		9M-20	
	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income
DVA (LC)	4	3	19	14	5	4	(7)	(5)
Loan portfolio hedges (LC)	(5)	(4)	(7)	(5)	(21)	(15)	41	28
Home Purchase Savings Plans (LCL)	-	-	-	-	(10)	(7)	(15)	(10)
Home Purchase Savings Plans (CC)	-	-	(4)	(3)	0	0	(50)	(34)
Home Purchase Savings Plans (RB)	-	-	-	-	1	0	(133)	(90)
Liability management upfront payment (CC)	-	-	-	-	-	-	(41)	(28)
Support to insured clients Covid-19 (LCL)	-	-	-	-	-	-	(2)	(1)
Support to insured clients Covid-19 (AG)	-	-	-	-	-	-	(143)	(97)
Support to insured clients Covid-19 (RB)	-	-	-	-	-	-	(94)	(64)
Ongoing sale project NBI (WM)	-	-	-	-	(1)	(1)	-	-
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	(2)	-	-	(2)	-	-	-	-
Total impact on revenues	(4)	(1)	8	7	(28)	(19)	(444)	(303)
Covid-19 donation (AG)	-	-	-	-	-	-	(38)	(38)
Covid-19 donation (IRB)	-	-	-	-	-	-	(8)	(4)
Covid-19 donation (CC)	-	-	-	-	-	-	(10)	(10)
Covid-19 donation (RB)	-	-	-	-	-	-	(10)	(10)
S3 / Kas Bank integration costs (LC)	-	-	(4)	(2)	(4)	(2)	(12)	(6)
Transformation costs (LC)	(5)	(3)	-	-	(22)	(11)	-	-
Transformation costs (FRB)	-	-	-	-	(13)	(9)	-	-
Ongoing sale project Expenses (WM)	-	-	-	-	(2)	(2)	-	-
Creval integrations costs (IRB)	(9)	(4)	-	-	(9)	(4)	-	-
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	(1)	-	-	(1)	-	-	-	-
Total impact on operating expenses	(15)	(7)	(4)	(2)	(50)	(28)	(78)	(68)
Restatement SRF 2016-2020 (CR)	-	-	-	-	55	55	-	-
Restatement SRF 2016-2020 (CC)	-	-	-	-	130	130	-	-
Total impact on SRF	-	-	-	-	185	185	-	-
Triggering of the Switch2 (AG)	-	-	-	-	-	-	65	44
Triggering of the Switch2 (RB)	-	-	-	-	-	-	(65)	(44)
Adjustment on switch 2 activation (RB)	-	-	28	19	-	-	28	19
Adjustment on switch 2 activation (GEA)	-	-	(28)	(19)	-	-	(28)	(19)
Creval - Cost of Risk stage 1 (IRB)	-	-	-	-	(25)	(21)	-	-
Total impact on cost of credit risk	-	-	-	-	(25)	(21)	-	-
Badwill Creval (IRB)	-	-	-	-	378	321	-	-
Total impact on change of value of goodwill	-	-	-	-	378	321	-	-
"Afrancamento" gain (IRB)	-	-	-	-	38	32	-	-
"Afrancamento" gain (AG)	-	-	-	-	114	80	-	-
Total impact on tax	-	-	-	-	152	111	-	-
"Afrancamento" gain (SFS)	-	-	-	-	5	5	-	-
Total impact equity-accounted entities	-	-	-	-	5	5	-	-
Creval acquisition costs (IRB)	-	-	-	-	(16)	(9)	-	-
Creval integrations costs (IRB)	1	-	-	-	1	-	-	-
Total impact on Net income on other assets	1	-	-	-	(15)	(9)	-	-
Reclassification of held-for-sale operations (SFS)	-	-	(69)	(69)	-	-	(69)	(69)
Reclassification of held-for-sale operation Bankoa (IRB)	-	-	(40)	(40)	-	-	(40)	(40)
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	-	-	(5)	(5)	-	-	(5)	(5)
Impairment on goodwill (AHM)	-	-	(55)	(55)	-	-	(55)	(55)
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	(1)	(4)	-	-	(1)	(4)	-	-
Ongoing sale project (WM)	-	-	-	-	5	5	-	-
Total impact on Net income from discounted or held-for-sale operations	(1)	(4)	(170)	(170)	3	0	(170)	(170)
Total impact of specific items	(19)	(12)	(165)	(165)	605	545	(693)	(541)
Asset gathering	-	-	(28)	(19)	116	82	(144)	(110)
French Retail banking	-	-	22	14	32	39	(298)	(207)
International Retail banking	(12)	(8)	(40)	(40)	363	314	(48)	(44)
Specialised financial services	-	-	(69)	(69)	5	5	(69)	(69)
Large customers	(7)	(4)	8	8	(42)	(24)	22	16
Corporate centre	-	-	(59)	(58)	130	130	(156)	(127)

* Impact before tax and before minority interests

クレディ・アグリコル S.A. — 特殊要因

(2021 年度第 3 四半期と 2020 年度第 3 四半期、2021 年度 9 ヶ月累計期間と 2020 年度 9 ヶ月累計期間)

€m	Q3-21		Q3-20		9M-21		9M-20	
	Gross impact*	Impact on Net Income	Gross impact*	Impact on Net Income	Gross impact*	Impact on Net Income	Gross impact*	Impact on Net Income
DVA (LC)	4	3	19	14	5	4	(7)	(5)
Loan portfolio hedges (LC)	(5)	(4)	(7)	(5)	(21)	(15)	41	27
Home Purchase Savings Plans (FRB)	-	-	-	-	(10)	(7)	(15)	(10)
Home Purchase Savings Plans (CC)	-	-	(4)	(3)	0	0	(50)	(34)
Liability management upfront payment (CC)	-	-	-	-	-	-	(41)	(28)
Support to insured clients Covid-19 (LCL)	-	-	-	-	-	-	(2)	(1)
Support to insured clients Covid-19 (AG)	-	-	-	-	-	-	(143)	(97)
Ongoing sale project NBI (WM)	-	-	-	-	(1)	(1)	-	-
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	(2)	-	-	-	(2)	-	-	-
Total impact on revenues	(4)	(1)	8	6	(29)	(19)	(217)	(148)
Covid-19 donation (AG)	-	-	-	-	-	-	(38)	(38)
Covid-19 donation (IRB)	-	-	-	-	-	-	(8)	(4)
Covid-19 donation (CC)	-	-	-	-	-	-	(10)	(10)
S3 / Kas Bank integration costs (LC)	-	-	(4)	(2)	(4)	(2)	(12)	(8)
Transformation costs (LC)	(5)	(3)	-	-	(22)	(11)	-	-
Transformation costs (FRB)	-	-	-	-	(13)	(9)	-	-
Ongoing sale project Expenses (WM)	-	-	-	-	(2)	(2)	-	-
Creval integration costs (IRB)	(9)	(4)	-	-	(9)	(4)	-	-
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	(0)	-	-	-	(0)	-	-	-
Total impact on operating expenses	(14)	(6)	(4)	(2)	(50)	(27)	(68)	(58)
Restatement SRF2016-2020	-	-	-	-	130	130	-	-
Total impact on SRF	-	-	-	-	130	130	-	-
Triggering of the Switch2 (AG)	-	-	-	-	-	-	65	44
Creval - Cost of Risk stage 1 (IRB)	-	-	-	-	(25)	(19)	-	-
Adjustement on switch 2 activation (GEA)	-	-	(28)	(19)	-	-	(28)	(19)
Total impact on cost of credit risk	-	-	(28)	(19)	(25)	(19)	38	26
Affranchimento gain (SFS)	-	-	-	-	5	5	-	-
Total impact equity-accounted entities	-	-	-	-	5	5	-	-
Creval integration costs (IRB)	1	-	-	-	1	-	-	-
Creval acquisition costs (IRB)	-	-	-	-	(16)	(8)	-	-
Total net income on other assets	1	-	-	-	(15)	(8)	-	-
Badwill Creval (IRB)	-	-	-	-	378	285	-	-
Total impact on change of value of goodwill	-	-	-	-	378	285	-	-
Affranchimento gain (IRB)	-	-	-	-	38	28	-	-
Affranchimento gain (AG)	-	-	-	-	114	78	-	-
Total impact on tax	-	-	-	-	152	106	-	-
Reclassification of held-for-sale operations (IRB)	(1)	(4)	-	-	(1)	(4)	-	-
Impairment on goodwill (CC)	-	-	(55)	(55)	-	-	(55)	(55)
Reclassification of held-for-sale operations (SFS)	-	-	(69)	(69)	-	-	(69)	(69)
Ongoing sale project (WM)	-	-	-	-	5	5	-	-
Total impact on Net income from discounted or held-for-sale operations	(1)	(4)	(124)	(124)	3	0	(124)	(124)
Total impact of specific items	(19)	(12)	(148)	(139)	549	454	(372)	(305)
Asset gathering	-	-	(28)	(19)	116	80	(144)	(110)
French Retail banking	-	-	-	-	(23)	(16)	(17)	(11)
International Retail banking	(12)	(8)	-	-	363	279	(8)	(4)
Specialised financial services	-	-	(69)	(69)	5	5	(69)	(69)
Large customers	(7)	(4)	8	7	(42)	(24)	22	16
Corporate centre	-	-	(59)	(58)	130	130	(156)	(127)

* Impact before tax and before minority interests

付属資料 2 - クレディ・アグリコル・グループ:部門別実績

クレディ・アグリコル・グループ部門別実績(2021 年度第 3 四半期と 2020 年度第 3 四半期)

	Q3-21 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,408	934	810	1,573	704	1,528	11	8,969
Operating expenses excl. SRF	(2,146)	(566)	(509)	(738)	(370)	(901)	(222)	(5,452)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	1,262	368	301	835	335	627	(211)	3,516
Cost of risk	(136)	(41)	(109)	6	(108)	(12)	(4)	(403)
Equity-accounted entities	0	-	1	25	79	2	-	107
Net income on other assets	(6)	1	0	(0)	(7)	(3)	0	(14)
Change in value of goodwill	(2)	-	-	-	-	0	-	(2)
Income before tax	1,118	329	193	865	299	615	(215)	3,205
Tax	(328)	(88)	(60)	(168)	(68)	(135)	55	(792)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	(3)	1	(1)	-	(0)	(3)
Net income	790	240	131	698	230	479	(159)	2,410
Non controlling interests	(0)	0	(21)	(118)	(31)	(17)	(1)	(187)
Net income Group Share	790	240	111	580	200	463	(161)	2,222

	Q3-20 (stated)							
€m	RB	LCL	AG	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,308	889	1,421	652	619	1,578	2	8,468
Operating expenses excl. SRF	(2,115)	(550)	(658)	(414)	(289)	(871)	(199)	(5,096)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	1,192	339	762	238	330	708	(198)	3,372
Cost of risk	6	(83)	(41)	(120)	(141)	(217)	1	(596)
Equity-accounted entities	(2)	-	17	-	72	0	(0)	88
Net income on other assets	(2)	1	(1)	6	(11)	1	(1)	(6)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	1,194	258	737	124	250	492	(197)	2,858
Tax	(398)	(74)	(173)	(33)	(43)	(119)	98	(743)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	(5)	-	-	(41)	(69)	-	(55)	(170)
Net income	790	184	564	51	138	372	(154)	1,945
Non controlling interests	(2)	(0)	(112)	(20)	(26)	(15)	(1)	(177)
Net income Group Share	789	184	452	31	112	357	(155)	1,769

クレディ・アグリコル・グループ部門別実績 (2021 年度 9 ヶ月累計期間と 2020 年度 9 ヶ月累計期間)

	9M-21 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	10,416	2,757	2,338	4,920	2,007	4,753	131	27,322
Operating expenses excl. SRF	(6,649)	(1,709)	(1,432)	(2,272)	(1,032)	(2,732)	(667)	(16,493)
SRF	(87)	(59)	(33)	(7)	(23)	(328)	58	(479)
Gross operating income	3,680	989	873	2,641	952	1,693	(478)	10,350
Cost of risk	(476)	(167)	(331)	(19)	(369)	(38)	(9)	(1,410)
Equity-accounted entities	(11)	-	1	63	241	5	-	299
Net income on other assets	6	2	(13)	(1)	5	(39)	3	(37)
Change in value of goodwill	-	-	378	-	-	0	-	378
Income before tax	3,199	824	908	2,684	828	1,621	(484)	9,580
Tax	(957)	(239)	(132)	(468)	(177)	(355)	134	(2,193)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(3)	5	-	-	(0)	2
Net income	2,242	585	773	2,221	651	1,266	(350)	7,389
Non controlling interests	(1)	(0)	(131)	(385)	(82)	(39)	(4)	(642)
Net income Group Share	2,241	585	642	1,837	569	1,227	(354)	6,746

	9M-20 (stated)							
€m	RB	LCL	AG	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	9,631	2,617	4,115	2,013	1,873	4,873	(191)	24,930
Operating expenses excl. SRF	(6,401)	(1,678)	(2,130)	(1,304)	(949)	(2,612)	(607)	(15,680)
SRF	(123)	(42)	(6)	(25)	(20)	(260)	(86)	(562)
Gross operating income	3,107	897	1,979	684	904	2,001	(883)	8,688
Cost of risk	(664)	(301)	4	(436)	(579)	(719)	(38)	(2,733)
Equity-accounted entities	1	-	46	-	204	5	(0)	256
Net income on other assets	(6)	2	2	72	7	1	(1)	78
Change in value of goodwill	(3)	-	-	-	-	-	-	(3)
Income before tax	2,434	598	2,032	319	536	1,288	(922)	6,286
Tax	(862)	(183)	(501)	(87)	(25)	(223)	350	(1,531)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(5)	-	-	(41)	(69)	-	(55)	(171)
Net income	1,567	415	1,531	191	442	1,065	(627)	4,584
Non controlling interests	(3)	(0)	(244)	(60)	(72)	(41)	(5)	(424)
Net income Group Share	1,564	415	1,287	131	370	1,024	(632)	4,159

付属資料 3 - クレディ・アグリコル S.A.: 部門別実績

クレディ・アグリコル S.A. 部門別実績 (2021 年度第 3 四半期と 2020 年度第 3 四半期)

€m	Q3-21 (stated)						
	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	1,571	934	794	704	1,527	0	5,531
Operating expenses excl. SRF	(738)	(566)	(495)	(370)	(901)	(189)	(3,259)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	833	368	299	335	626	(189)	2,272
Cost of risk	6	(41)	(109)	(108)	(12)	(2)	(266)
Equity-accounted entities	25	-	1	79	2	(4)	103
Net income on other assets	(0)	1	0	(7)	(3)	(0)	(8)
Income before tax	864	329	192	299	614	(196)	2,101
Tax	(168)	(88)	(59)	(68)	(135)	49	(470)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	1	-	(3)	(1)	-	-	(3)
Net income	696	240	130	230	478	(147)	1,628
Non controlling interests	(123)	(11)	(31)	(31)	(26)	(4)	(226)
Net income Group Share	573	230	99	200	452	(151)	1,402

€m	Q3-20 (stated)						
	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	1,411	889	657	619	1,579	(3)	5,151
Operating expenses excl. SRF	(658)	(550)	(415)	(289)	(871)	(209)	(2,991)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	753	339	241	330	708	(212)	2,160
Cost of risk	(41)	(83)	(124)	(141)	(217)	2	(605)
Equity-accounted entities	17	-	-	72	0	9	98
Net income on other assets	(1)	1	6	(11)	1	0	(3)
Income before tax	728	258	123	250	492	(201)	1,650
Tax	(172)	(74)	(33)	(43)	(119)	96	(346)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(0)	(69)	-	(55)	(125)
Net income	556	184	89	138	372	(160)	1,180
Non controlling interests	(116)	(8)	(26)	(26)	(23)	(4)	(203)
Net income Group Share	440	176	63	112	350	(164)	977

クレディ・アグリコル S.A. 部門別実績 (2021 年度 9 ヶ月累計期間と 2020 年度 9 ヶ月累計期間)

	9M-21 (stated)						
€m	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	4,919	2,757	2,289	2,007	4,753	119	16,843
Operating expenses excl. SRF	(2,272)	(1,709)	(1,392)	(1,032)	(2,732)	(573)	(9,709)
SRF	(7)	(59)	(33)	(23)	(328)	58	(392)
Gross operating income	2,640	989	864	952	1,693	(396)	6,742
Cost of risk	(19)	(167)	(329)	(369)	(38)	(6)	(929)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	63	-	1	241	5	(19)	291
Net income on other assets	(1)	2	(13)	5	(39)	4	(42)
Change in value of goodwill	-	-	378	-	0	-	378
Income before tax	2,683	824	901	828	1,621	(417)	6,440
Tax	(467)	(239)	(131)	(177)	(355)	124	(1,245)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	5	-	(3)	-	-	-	2
Net income	2,221	585	767	651	1,266	(293)	5,197
Non controlling interests	(402)	(26)	(193)	(82)	(65)	(13)	(781)
Net income Group Share	1,819	559	574	569	1,201	(306)	4,416

	9M-20 (stated)						
€m	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	4,090	2,617	1,967	1,873	4,872	(170)	15,248
Operating expenses excl. SRF	(2,129)	(1,678)	(1,263)	(949)	(2,612)	(594)	(9,226)
SRF	(6)	(42)	(25)	(20)	(260)	(86)	(439)
Gross operating income	1,954	897	678	904	2,000	(850)	5,583
Cost of risk	4	(301)	(438)	(579)	(719)	(36)	(2,068)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	46	-	-	204	5	22	277
Net income on other assets	2	2	72	7	1	0	84
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	2,007	598	312	536	1,287	(863)	3,876
Tax	(495)	(183)	(86)	(25)	(223)	320	(692)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(1)	(69)	-	(55)	(125)
Net income	1,512	415	225	442	1,064	(599)	3,059
Non controlling interests	(255)	(19)	(74)	(72)	(62)	(9)	(490)
Net income Group Share	1,257	396	151	370	1,002	(608)	2,568

付属資料 4 — 1 株当たり利益、1 株当たり純資産の計算に使用される方法

(€m)		Q3-21	Q3-20	9M-21	9M-20	Δ Q3/Q3	Δ 9M/9M
Net income Group share - stated		1,402	977	4,416	2,568	+43.5%	+71.9%
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(97)	(65)	(290)	(294)	+49.2%	(1.4%)
NIGS attributable to ordinary shares - stated	[A]	1,305	912	4,126	2,274	+43.1%	+81.4%
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	3,050.3	2,882.3	2,979.4	2,882.6	+5.8%	+3.4%
Net earnings per share - stated	[A]/[B]	0.43 €	0.32 €	1.38 €	0.79 €	+35.2%	+75.5%
Underlying net income Group share (NIGS)		1,414	1,115	3,962	2,874	+26.7%	+37.9%
Underlying NIGS attributable to ordinary shares	[C]	1,317	1,050	3,672	2,580	+25.3%	+42.3%
Net earnings per share - underlying	[C]/[B]	0.43 €	0.36 €	1.23 €	0.89 €	+18.4%	+37.7%

(€m)		30/09/2021	30/09/2020
Shareholder's equity Group share		66,809	64,591
- AT1 issuances		(4,886)	(5,134)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share		(2,233)	(2,562)
- Payout assumption on annual results*		(1,857)	
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	[D]	57,833	56,894
- Goodwill & intangibles** - Group share		(17,755)	(18,301)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	[E]	40,078	38,593
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]	3,043.9	2,882.0
NBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]	19.0 €	19.7 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]	13.2 €	13.4 €

* dividend proposed to the Board meeting to be paid

** including goodwill in the equity-accounted entities

(€m)		9M-21	9M-20
Net income Group share - stated	[K]	4,416	2,568
Impairment of intangible assets	[L]	0	0
IFRIC	[M]	-568	-493
Stated NIGS annualised	[N] = ([K]-[L]-[M])*2+[M]	6,077	3,589
Interests on AT1, including issuance costs, before tax, annualised	[O]	-387	-392
Stated result adjusted	[P] = [N]+[O]	5,690	3,197
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ord. sh. - avg***	[J]	38,961	36,102
Stated ROTe adjusted (%)	= [P] / [J]	14.6%	8.9%
Underlying Net income Group share	[Q]	3,962	2,874
Underlying NIGS annualised	[R] = ([Q]-[M])*12/9+[M]	5,471	3,996
Underlying NIGS adjusted	[S] = [R]+[O]	5,085	3,604
Underlying ROTe adjusted(%)	= [S] / [J]	13.1%	10.0%

*** including assumption of dividend for the current exercise

付属資料 5 — 連結範囲変更影響を除いた CACF の損益計算書

€m	Q3-21 stated	Spec ific item s	Q3-21 underly ing	Q3-20 stated	Specif ic item s	Q3-20 underlyin g	Δ Q3/Q3 stated	Δ Q3/Q3 underlyin g	Q3-20 CACF NL	Q3-20 excl. CACF NL	Q3-21 CACF NL	Q3-21 excl. CACF NL	Δ Q3/Q3 underlyin g excl. CACF NL
Revenues	553	-	553	488	-	488	+13.5%	+13.5%	(15)	502	36	517	+3.0%
Operating expenses excl. SRF	(290)	-	(290)	(218)	-	(218)	+33.0%	+33.0%	29	(247)	(36)	(255)	+3.0%
SRF	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.	-	-	-	-	n.m.
Gross operating income	263	-	263	269	-	269	(2.4%)	(2.4%)	14	255	0	263	+3.1%
Cost of risk	(92)	-	(92)	(127)	-	(127)	(27.4%)	(27.4%)	0	(127)	6	(98)	(23.0%)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.	-	-	-	-	n.m.
Equity-accounted entities	79	-	79	72	-	72	+9.7%	+9.7%	-	72	-	79	+9.7%
Net income on other assets	(7)	-	(7)	(10)	-	(10)	(29.2%)	(29.2%)	-	(10)	-	(7)	(29.2%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	ns	ns	-	-	-	-	ns
Income before tax	243	-	243	205	-	205	+18.7%	+18.7%	15	190	6	237	+24.8%
Tax	(54)	-	(54)	(32)	-	(32)	+69.1%	+69.1%	-	(32)	(5)	(48)	+52.7%
Net income from discontinued or held-for-sale ops.	(1)	-	(1)	(69)	(69)	-	ns	ns	-	-	(1)	(0)	ns
Net income	189	-	189	104	(69)	173	+81.1%	+8.9%	15	158	0	188	+19.1%
Non controlling interests	(31)	-	(31)	(26)	-	(26)	+17.3%	+17.3%	-	(26)	(0)	(31)	+17.3%
Net income Group Share	158	-	158	78	(69)	147	x 2	+7.4%	15	132	0	158	+19.5%

付属資料 6 — 連結範囲変更影響を除いたイタリアを除く IRB の損益計算書(CA セルビアを除く)

€m	Q3-21 stated	Spe cific item s	Q3-21 underly ing	Q3-20 stated	Speci fic items	Q3-20 underly ing	Δ Q3/Q3 stated	Δ Q3/Q3 underly ing	Q3-20 CA Srbija AD	Q3-20 adjust ed	Q3-21 CA Srbija AD underlying	Q3-21 adjusted	Δ Q3/Q3 underlying excl. CA Srbija
Revenues	182	(2)	184	195	-	195	(6.6%)	(5.5%)	12	183	(27)	211	+15.4%
Operating expenses excl. SRF	(112)	(0)	(112)	(134)	-	(134)	(15.9%)	(16.2%)	(8)	(125)	16	(128)	+2.2%
SRF	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.	-	-	-	-	n.m.
Gross operating income	70	(3)	72	61	-	61	+13.4%	+18.0%	4	58	(11)	83	+44.0%
Cost of risk	(29)	-	(29)	(38)	-	(38)	(22.5%)	(22.5%)	(0)	(38)	1	(31)	(18.9%)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.	-	-	-	-	n.m.
Equity-accounted entities	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.	-	-	-	-	n.m.
Net income on other assets	(1)	-	(1)	7	-	7	n.m.	n.m.	0	7	(0)	(1)	n.m.
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.	-	-	-	-	n.m.
Income before tax	39	(3)	42	30	-	30	+30.8%	+40.2%	3	27	(10)	52	+93.8%
Tax	(14)	-	(14)	(11)	-	(11)	+32.7%	+32.7%	(0)	(10)	1	(15)	+50.4%
Net income from discont'd or held-for- sale ope.	(3)	(1)	(1)	(0)	-	(0)	n.m.	n.m.	-	(0)	-	(1)	x 2.9
Net income	22	(4)	27	19	-	19	+18.5%	+41.0%	3	16	(8)	35	x 2.2
Non controlling interests	(10)	-	(10)	(8)	-	(8)	+27.0%	+27.0%	-	(8)	-	(10)	+27.0%
Net income Group Share	13	(4)	17	11	-	11	+12.6%	+50.8%	3	8	(8)	25	x 3.1

代替的業績指標

NBV(再評価されない純資産額)

再評価されない純資産額は、AT1 債券の発行額、OCI グループ帰属分の未実現損益、及び年間業績に関する配当金想定額を控除した株主資本グループ帰属分に対応しています。

1 株当たり純資産額、1 株当たり純有形資産価額

株式の価値を計算する方法の 1 つ。これは、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した純資産額です。

1 株当たり純有形資産価額は、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した、無形資産及びのれんを控除後の純資産額です。

EPS(1 株当たり利益)

これは、自己株式を除く平均発行済株式数で除した、AT1 債券利息控除後の純利益グループ帰属分です。EPS は、(各株主に支払われる利益部分(配当)ではなく)各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、営業費用を収益で除すことで算定され、営業費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

(ローリング 4 四半期の)信用リスク関連費用を、(期首における過去 4 四半期の平均)残高で除して算定されます。また、当該四半期の信用リスク関連費用の年換算額を当該四半期の期首残高で除して算出することもできます。同様に、当該期間のリスク関連費用を年換算し、期首の平均残高で除すこともできます。

2019 年度第 1 四半期より、算定に用いる残高は、引当金控除前の顧客残高です。

この指標の算出方法は、この指標が使用される度に明示されます。

要注意債権

デフォルトになりかけている債権。融資先は、次のいずれかの条件が満たされた場合にデフォルト状態とみなされます。

- 支払が概して 90 日超遅延している(支払遅延が融資先の財務状況とは無関係の理由による旨の事実を具体的な状況が指し示している場合を除く)。
- 担保権の執行などの特定の措置を活用する以外に、融資先がその信用債務を決済する可能性が低いと考えられる。

減損債権

不履行のリスクがあるために、引当金が設定された貸付金。

減損(または要注意)債権引当率:

この比率は、引当金残高を減損した顧客残高総額で除して算出されます。

減損(または要注意)債権比率:

この比率は、個別評価で評価減された引当金控除前の顧客残高総額を、顧客残高総額合計で除算したものです。

純利益グループ帰属分

当該事業年度の税引後純利益（損失）。全部連結された子会社における純利益グループ帰属分から非支配持分に帰属する部分を控除した額に相当します。

基礎純利益グループ帰属分

基礎純利益グループ帰属分は、特殊要因（すなわち、非経常的項目や例外的項目）控除後の純利益グループ帰属分を表します。

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分

普通株式に帰属する純利益グループ帰属分は、AT1 利息控除後で、税引前発行費用を含む、純利益グループ帰属分を表します。

RoTE（有形株主資本利益率）

RoTE（有形株主資本利益率）は、年換算後の純利益グループ帰属分を無形資産及びのれん控除後のグループのNBVで除すことによって、有形資本に対する収益率を測定します。年換算後の純利益グループ帰属分は、純利益グループ帰属分を年換算（第 1 四半期 × 4、上半期 × 2、9 ヶ月累計期間 × 4/3）し、無形資産の減損を除外し、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正したものに相当します。

Disclaimer

The financial information on Crédit Agricole S.A. and Crédit Agricole Group for third quarter and first nine months of 2021 comprises this press release, the presentation and the attached appendices which are available on the website: <https://www.credit-agricole.com/en/finance/finance/financial-publications>.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of EU Delegated Act 2019/980 of 14 March 2019 (chapter 1, article 1, d).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset impairment.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the nine-month period ending 30 September 2021 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date, and with prudential regulations currently in force. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and has not been audited.

Note: The scopes of consolidation of the Crédit Agricole S.A. and Crédit Agricole Groups have not changed materially since the Crédit Agricole S.A. 2020 Universal Registration Document and its A.01 update (including all regulatory information about the Crédit Agricole Group) were filed with the AMF (the French Financial Markets Authority).

The sum of values contained in the tables and analyses may differ slightly from the total reported due to rounding.

On 30 June 2020, once all necessary regulatory approvals were secured, Amundi acquired the entire share capital of Sabadell Asset Management.

At 30 June 2021, following the buyback by Crédit Agricole Consumer Finance of 49% of the share capital of the CACF Bankia S.A. joint venture, CACF Bankia S.A. is fully consolidated in Crédit Agricole S.A.'s consolidated financial statements.

As at 30 June 2021 following the takeover bid launched by Crédit Agricole Italia for Credito Valtellinese, 100% of Credito Valtellinese is held by Crédit Agricole Italia and is fully consolidated in the consolidated financial statements of Crédit Agricole S.A.

決算スケジュール

2022 年 2 月 10 日	2021 年度第 4 四半期及び通期の決算発表
2022 年 5 月 5 日	2022 年度第 1 四半期の決算発表
2022 年 5 月 24 日	モンペリエにおいて株主総会
2022 年 8 月 4 日	2022 年度第 2 四半期及び上半期の決算発表
2022 年 11 月 10 日	2022 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

Contacts

CREDIT AGRICOLE PRESS CONTACTS

Charlotte de Chavagnac	+33 (0)1 57 72 11 17	charlotte.dechavagnac@credit-agricole-sa.fr
Olivier Tassain	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
Bertrand Schaefer	+33 (0)1 49 53 43 76	bertrand.schaefer@ca-fnca.fr

CREDIT AGRICOLE S.A. INVESTOR RELATIONS CONTACTS

Institutional shareholders	+ 33 1 43 23 04 31	investor.relations@credit-agricole-sa.fr
Individual shareholders	+ 33 800 000 777 (freephone number – France only)	relation@actionnaires.credit-agricole.com
Clotilde L'Angevin	+ 33 1 43 23 32 45	clotilde.langevin@credit-agricole-sa.fr
Equity investors:		
Toufik Belkhatir	+ 33 1 57 72 12 01	toufik.belkhatir@credit-agricole-sa.fr
Joséphine Brouard	+ 33 1 43 23 48 33	joséphine.brouard@credit-agricole-sa.fr
Oriane Cante	+ 33 1 43 23 03 07	oriane.cante@credit-agricole-sa.fr
Nicolas Ianna	+ 33 1 43 23 55 51	nicolas.ianna@credit-agricole-sa.fr
Anna Pigoulevski	+ 33 1 43 23 40 59	anna.pigoulevski@credit-agricole-sa.fr
Annabelle Wiriath	+ 33 1 43 23 55 52	annabelle.wiriath@credit-agricole-sa.fr
Credit investors and rating agencies:		
Caroline Crépin	+ 33 1 43 23 83 65	caroline.crepin@credit-agricole-sa.fr
Marie-Laure Malo	+ 33 1 43 23 10 21	marielaure.malo@credit-agricole-sa.fr
Rhita Alami Hassani	+ 33 1 43 23 15 27	rhita.alamihassani@credit-agricole-sa.fr

See all our press releases at: <http://www.credit-agricole.com/> - <http://www.creditagricole.info/>



Crédit_Agricole



Crédit Agricole Group



créditagricole_sa